

2016~2017年度 岩手大学海外留学体験報告



**A Glance at
Our Study Abroad Experience**



目次



Page

4

「自分の人生は自分で変える、同じ日など一日もなかった私の濃い留學生活」 中国 寧波大学

6

「ソウルでの留學生活」 韓国 明知大学

8

「韓国留學～群山大学～」 韓国 群山大学

10

「群山大学留學について」 韓国 群山大学

12

「私のボルドー体験記」 フランス ボルドー・モンテーニュ大学

14

「Mon séjour à Bordeaux en France」
フランス ボルドー・モンテーニュ大学

16

「"月の都ボルドー"で実り多い留學体験」
フランス ボルドー・モンテーニュ大学

18

「ボルドー留學体験記」 フランス ボルドー・モンテーニュ大学

20

「交換留學～My Life at Earlham～」
アメリカ アーラム大学

22

「一瞬の留學、一生の記憶」 アメリカ ノース・セントラル・カレッジ

24

「目標実現の理想と現実 うれし涙と悔し涙」
カナダ セント・メアリーズ大学

Page

26	「フランス アンジェでの課題解決型海外研修&ホームステイ」 フランス 西部カトリック大学
28	「本当の『知識』を求めて」 フランス 西部カトリック大学
30	「林業大国ドイツに学べ！」 ドイツ ロッテンブルク大学
32	「グローバルプロ養成プログラム」 アメリカ
34	「ヨーロッパで最もグリーンな街から学ぶエネルギー」 スウェーデン SCIP研修
36	「海外留学は面白い！？～SCIPに参加してみた～」 アイスランド SCIP研修

 トビタテ！留学JAPAN（全国版・地域版） 

38	「野生動物保全の第一人者になるために」 カナダ ペルー エクアドル ケニア（トビタテ！全国版）
40	「医療用ブタの開発およびその生産ビジネスの起業を目指して」 カナダ アメリカ（トビタテ！全国版）
42	「世界にはばたけ！ Japanese SAKE」 アメリカ（トビタテ！地域版）
44	「観光におけるデザインとユーザビリティの両立を学ぶ」 カナダ（トビタテ！地域版）
46	「暮らしを変える。－地域と考える、新たな理想郷－」 イギリス ドイツ（トビタテ！地域版）

「自分の人生は自分で変える、同じ日など一日もなかった私の濃い留学生活」

留学先：中国／浙江省／寧波／
寧波大学

留学期間：2016年9月上旬～2017年7月下旬

留学した時の学年：2年後期－3年前期

学部・研究科名：人文社会科学部

学科・課程名・コース名：国際文化課程アジア文化コース

●留学の内容

岩手大学の交換留学制度を利用して、寧波大学国際交流学院において中国語の授業を受けました。クラスはA-Eまでの5クラスあり、前期後期でクラス替えがありました。私のクラスには日本人はおらず中国語と英語を磨くには良い環境でした。また、中国語を学ぶだけでなく、聴講生として英語のコミュニケーションクラスや総合クラス、政治学の授業にも参加しました。

●留学の動機

実は2年生前期でアメリカでの英語圏留学をしたかったのですが、1年生前期でTOEFLの点数が足りず挫折しました。しかし、そのとき第二外国語としていた中国語の授業に来ていた中国人留学生に「中国でも英語を伸ばす機会もあるし、中国という選択肢も考えてみたら？」とアドバイスをもらったのがきっかけでした。その後中国についてのニュースをよく見たり中国人留学生とたくさん交流をしたりするようになり、今までメディアによって構築されていた中国に対する偏見があることに気づきました。近いようで遠い国、そんな中国に留学したいと思うようになりました。1年後期にはそう決めていました。

●留学の成果

語学力はもちろんのこと、自己管理能力、コミュニケーション能力はかなり上がったと思います。また、たくさん本やニュースを読むようになりました。そのおかげで宗教や政治に対する理解も深まりました。世界に一步踏み出すことで、自分の生きていた世界がどれだけ小さかったのか思い知りました。

●スペシャルエピソード

中国の春節を中国人の友達の家で過ごしたのが一番の思い出です。日本は年越しと言ったら、年越しそばを食べながら、あけおめ！という感じで過ごしますよね。中国では、年夜飯という料理を食べた後、中国版紅白歌合戦を見て、23:45頃から爆竹と花火を準備します。そして年越しのタイミングで一斉に大量の爆竹が空に放たれます。それも朝の3時頃まで続きます。どこかの工場が大爆発したのではないかと思うくらいにぎやかで、一生忘れられない素敵な思い出になりました(笑)中国では家族同士の絆が深く今でも伝統を引き継いでいるのがとても良いと思いました。

●これから留学したい人へアドバイス

私はよく「どうしてそんなに外国の友達と仲いいの？」と聞かれます。その答えは自分から積極的に動いているからです。私は純日本人なので言語を取得しそれを使う難しさを何度も味わってきました。だからこそ今があるのだと思います。自分をプッシュできるのは自分だけです、一緒に一步を踏み出してみませんか？

● 留学費用について

①総費用：約100万円

(内訳 渡航費50000円(往復)、学費0円(交換留学制度のため)、宿舍費21000円(1か月)、光熱水費10000円(1年間)、食費10000円(1か月)、ビザ・保険料30000円、雑費他30000円(1か月))

②費用負担 自己負担20万円、親からの支援10万円、留学奨学金66万円(1か月6万円)

③使ったお金の割合：現金20%、トラベルプリペイドカード（キャッシュパスポート） 30%、その他（Alipay） 50%

※中国ではスマホ決済が主流になってきているのでスマホと中国の銀行を直結してほとんどスマホで支払いしていました。

● 留学先宿舍について

・形態：大学寮（寧波大学陽光留学生公寓）

・家賃額：月 額 21000円（水道費含む・光熱費含まない）

・参考情報：多国籍。毎週クリーニングが入る。各階に共同キッチンあり、2/5階に共同ランドリーあり、一人部屋と二人部屋(月14000円)選択可能、部屋にはシャワー、トイレ、机、ベッド、椅子、クローゼット、エアコン完備。寮の近くには多くの店が並んでいる商店街あり。（私の帰国直前に寮の目の前にStarbucksができていました）

● 語学力について

・現地で使用した言語：中国語、英語

・語学レベルUP：中国語は会話がたどたどしい状態でいきましたが、今では旅行や日常では問題ないくらいになりました。

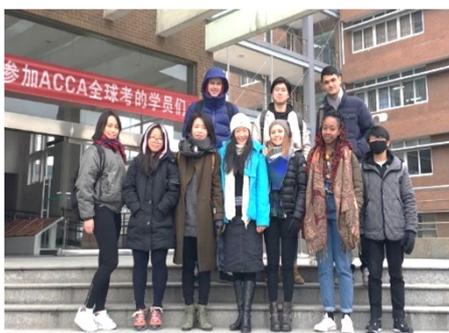
・適正レベル：中国語での買い物や数字などの基本的な会話はできたほうが良いと思います。

● ネット環境及びその他の参考情報

WIFI使えるところも多いです。中国国内でよくスマホを使うなら、中国のキャリアで契約することをお勧めします。

● 留学中の主なスケジュール

曜日／日程	午前	午後
月曜/1日目	通常授業	通常授業、図書館で勉強、留学生たちとクッキング、ジムで運動等
火曜/2日目	↓	
水曜/3日目	↓	
木曜/4日目	↓	
金曜/5日目	↓	
土曜/6日目	旅行、買い物、登山、ジム、日本語教育等	
日曜/7日目	↓	



①大好きなクラスメイト



②私の大好物マラータン



③上海の東方明珠と北京の天安門

「ソウルでの留学生活」



留学先：韓国 ソウル
留学期間：2017年 2月～ 8月
(6か月)

留学した時の学年：3年
学部・研究科名：人文社会化学部
学科・課程名・コース名：国際文化課程

●留学の内容

ソウルの明知大学に半年間交換留学生として留学した。大学内にある学生寮で日本人と韓国人とベトナム人の4人で交流を深めた。授業は外国人向けの韓国語の授業をメインに韓国語で発表や討議をする授業も履修した。夏休みは明知大学で受けることができる語学堂に登録し、月曜日から金曜日まで毎日朝9時から13時までの授業に参加していた。

●留学の動機

中学生のころから独学で勉強していた韓国語を大学で1年間履修し、自分の韓国語の実力を試してみたかったため。また、1年生のときから積極的に参加していた研修で韓国人の友人ができ韓国の文化に興味をもつようになったので実際に現地で文化を体験してみたいと思い留学を決めた。

●留学の成果

韓国の大学で韓国語を使って学生と交流しながら韓国文化に触れることができた。最初は自己満足のためだけに勉強していた韓国語だったが、留学中の韓国語能力試験を通して実力向上を感じることができた。日本だけではなく様々な国の学生と交流できたこともよかったと感じている。

●スペシャルエピソード

日本のようにコンビニにトイレがないのでトイレ探しに苦労したことが多かった。韓国はコンビニよりもカフェのほうが多いと言われており、カフェのトイレを主に利用していた。レシートにトイレの暗証番号が書かれており注文しないとトイレを利用できないので有料でトイレに入る気分だった。

●これから留学したい人へアドバイス

半年という短い期間でも充実感を感じられた留学生活であったが、多額の費用がかかるため両親との相談・奨学金との兼ね合いがとても重要。韓国人学生だけでなく多国籍な交流を持ちたい人はソウルなど都市部に留学すると思う。

● 留学費用について

①総費用：約80万円

(内訳 渡航費(往復)6万円、学費 交換留学生なので岩手大学の学費、宿舎費半年で14万円、食費20万円、ビザ・保険料6万円、語学堂登録費7万円 ポケットWi-Fi3万円)

②費用負担 親からの支援 40万円、留学奨学金 1か月×7万円

③使ったお金の割合：現金10%、クレジットカード(Master Card)90%

● 留学先宿舎について

・形態：学生寮 4人部屋

・家賃額：半年14万円

・参考情報：2人、4人部屋を選ぶことができる。男女が別の階になっている。キッチン是最小限のもののみで自炊をする人は少ない。ルームメイトは多国籍。

● 語学力について

・現地で使用した言語：韓国語

・語学レベルUP：8月に韓国語能力試験TOPIK II 5級取得

・適正レベル：日本語ができる韓国人が多いため初級レベルでも生活できるのでハングルを読み書きできるレベルであれば留学は可能。

● ネット環境及びその他の参考情報

・日本よりもFreeWi-Fiスポットは多いが借りたほうが便利。半年3万円で借りた。パソコンは寮内にも学内にもあるため持っていかなくても大丈夫だった。クレジットカードは渡航前に作っておく。電圧が違うため注意が必要。

● 留学中の主なスケジュール

曜日/日程	午前	午後
月曜/1日目	授業・語学堂	宿題・買い物
火曜/2日目	授業・語学堂	宿題・買い物
水曜/3日目	授業・語学堂	宿題・買い物
木曜/4日目	授業・語学堂	宿題・買い物
金曜/5日目	授業・語学堂	宿題・買い物
土曜/6日目	宿題	友達とショッピング
日曜/7日目	宿題	観光地巡り



漢江公園



韓服で景福宮巡り



学園祭の様子

「韓国留学～群山大学～」



留学先：韓国／全羅北道／群山市／
群山大学

留学期間：2017年 3月～ 8月
(6か月)

留学した時の学年：3年

学部・研究科名：人文学部

学科・課程名・コース名：日語日文学科

●留学の内容

月曜日から金曜日は9:10～13:00は大学内にある語学堂で韓国語を勉強し、午後に日語日文学科の授業に参加した。日語日文学科の授業は三つ履修したが、すべて韓国語で日本語の構造や日本の文化について、韓国人からの視点で授業しているため、語学力だけでなく、日本人が普段気にしないような内容まで外国人の視点で教えているため日本人の私でも様々な発見があった。テコンドーの大会も見に行き、伝統的な文化も学んだ。

●留学の動機

大学一年生の時に初級外国語として韓国語を学び始めたことがきっかけ。その後、自分の韓国語の実力を試したいと思い、一年生の春休みに韓国研修に参加。もっと自分の語学力を向上させたいと感じ、三年生前期に韓国へ留学を決めた。

●留学の成果

私の留学での語学力の向上には、語学堂での授業ではなく、友達との会話や日常生活の買い物、旅行などが大きく影響していると感じる。休みの日には遠くの地域へ旅行に行き、韓国のほとんどの地域を訪れることができた。そのおかげで、語学力だけではなく、文化的な面も学ぶことができた。

●スペシャルエピソード

留学していて一番困ったことは、韓国と日本では祝日が違うため、日本のカレンダーを見て生活していたら祝日の日に学校に行ってしまったということが二回ほどあった。韓国人の友達も祝日ということを当たり前だと思っていたため、教えてくれる人もいなく、とても困った。

●これから留学したい人へアドバイス

私は語学力が高くない状態で留学に行ったため、最初はなかなか韓国人の友達と会話が進まなかったり、一つの説明をしてもらうのにも時間がかかってしまったりしてしまったため、もっと日本で単語だけでもたくさん勉強していれば、もっとたくさんのことを学ぶことができたのではないかと感じた。これから留学をする人には、日常生活程度の単語はある程度勉強していったほうが、韓国人との会話もスムーズにでき、時間を効率的に使うことができると感じる。

●留学費用について

①総費用：70万円

(内訳 渡航費5万円、学費3万円、宿舍費20万円、光熱水費0円、食費10万円、ビザ・保険料1万円、お土産代他10万円)

②費用負担 自己負担10万円、親からの支援70万円、留学奨学金49万円

③使ったお金の割合：現金30%、クレジットカード (VISA) 70%

●留学先宿舍について

・形態：大学寮

・家賃額：3ヶ月 額 10万円 (光熱水費含む)

・参考情報：勉強机、二段ベット、クローゼット、洗濯機、シャワー、トイレ設備、大学寮食堂、屋内運動場、六人の大きな部屋がさらに二人部屋に分かれている状態

●語学力について

・現地で使用した言語：韓国語

・語学レベルUP：日常会話を不便なくできる状態になった

・適正レベル：学部の授業内容がある程度理解できる状態がよかった

●ネット環境及びその他の参考情報

・寮や大学にはWi-Fiがあったため、ネット環境はある

・私物のパソコンは必要ない

・寮のWi-Fiはたまに使用できなくなる場合があるため、学校に行くか、学校前のカフェで使用

●留学中の主なスケジュール

曜日/日程	午前	午後
月曜/1日目	9:10~13:00韓国語授業	ジム、ショッピング
火曜/2日目	9:10~13:00韓国語授業	学部授業
水曜/3日目	9:10~13:00韓国語授業	ジム、ショッピング
木曜/4日目	9:10~13:00韓国語授業	学部授業
金曜/5日目	9:10~13:00韓国語授業	学部授業
土曜/6日目	ショッピング、勉強	
日曜/7日目	ショッピング、勉強	



韓国研修の時の友達が経営するカフェ



韓国式の日本食蕎麦
(麺が蒟蒻のようにつるつるとした食感)



日語日文学科 (体育祭)

「群山大学留学について」



留学先：韓国 全羅北道 群山市
交換留学

留学期間：2017年 3月～ 8月
(6か月)

留学した時の学年：3年
学部・研究科名：人文社会化学部
学科・課程名・コース名：国際文化課程

●留学の内容

群山大学では主に語学堂に通います。1～3級のクラスがあって自分に合ったレベルの授業を聞くことができます。また、私たちは日語日文学科に所属し、古典や日本語学の授業を聞きました。日語日文学科の学生としてMTという合宿や運動会に参加したり、授業終わりに友達とご飯を食べに行ったりしました。休日は旅行に行ったり、市内を散策してお土産を買ったり、カフェに行って勉強したり、外出することが多かったです。

●留学の動機

私は1年生の2月に10日間の韓国研修に参加しました。その時はハングルも全く読めませんでした。周りの友達が韓国語を話しているのを見て羨ましく思ったのが韓国語の勉強を始めたきっかけです。その研修で群山大学に友達ができ、群山大学に行くことを決めました。

●留学の成果

留学をして韓国語はもちろんですが、人と話すのが楽しいと思うようになったのが一番成長したところだと思います。私は親しくない人と話すのがすごく苦手だったし、初めは韓国語が全然できなくて人と話すのが嫌でした。でも、話が理解できたときや言いたいことが伝わったときに自分の韓国語が上達していることを実感できて、お喋りが楽しいと思えるようになりました。

●スペシャルエピソード

私は韓国でたくさん旅行に行きました。理由は、これから新しく知り合う韓国人と話をするときに出身地の話ができるからです。外国人が自分の出身地を知っていたら嬉しいですね。実際に日本に帰ってきてから偶然知り合った韓国人と、ある地域の話でとても盛り上がり楽しかったです。また、旅行では本当にたくさんの人に助けられました。チケットを買うのを手伝ってもらったり、施設の案内をしてもらったり、親切にしてもらったこともとてもいい思い出です。

●これから留学したい人へアドバイス

留学することを決めるのはすごく勇気がいることだけど、絶対にいい経験になります。行くか迷って結局諦めちゃうのはすごくもったいないです。このポスターが少しでも背中を押すきっかけになりますように！

● 留学費用について

①総費用：70万円

(内訳 渡航費6万円、宿舍費20万円、食費5万円、ビザ・保険料10万円、消耗品・化粧品・Wi-Fiなど7万、旅費・お土産代他20万円)

②費用負担 自己負担20万円、留学奨学金49万円

③使ったお金の割合：現金30%、クレジットカード(イオンカード) 70%

● 留学先宿舎について

・形態：大学寮(二人部屋、シャワー・トイレ・洗面台・洗濯機は3部屋で共用)

・参考情報：3食付き、布団と消耗品は各自で購入、建物は新しくセキュリティもしっかりしてます。

ジムや勉強スペース、自販機もあるのでとても快適です。寮は中国人やベトナム人がほとんどですが、長期休み中は韓国人や台湾人が来ます。いろんな国の人たちと友達になれます。

● 語学力について

・現地で使用した言語：韓国語

・語学レベルUP：初めは自己紹介も満足にできませんでしたが、語学堂と一緒に留学した子に助けをもらい背伸びして2級、3級の授業を受けました。おかげでTOPIK3~4級程度になりました。

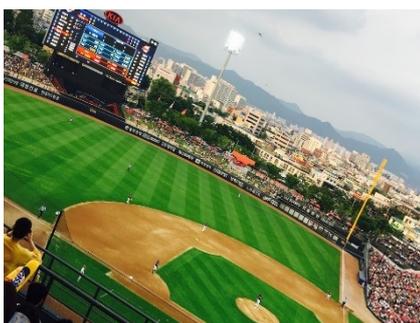
・適正レベル：ハングルを読めなくても語学堂が1級からあるので問題ないですが、2級の授業は理解できるくらいで行ったほうが楽しいです。

● ネット環境及びその他の参考情報

・私はスマートフォンのみ持って行きました。韓国は街中にフリーWi-Fiがあるので簡単にネットにつながることができますが、現地でポケットWi-Fiを借りるともっと便利だと思います。パソコンは持って行かなかったため、使わないといけなときは日文学科の事務所で借りていました。また、友達との連絡はカカオトークです。韓国人と友達になったらカトクは必須!

● 留学中の主なスケジュール

曜日/日程	午前	午後
月曜/1日目	語学堂、友達と昼食	飲み会
火曜/2日目	日文学科の授業、友達と昼食	日文学科の授業
水曜/3日目	語学堂、寮の食堂で昼食	ジムで運動
木曜/4日目	語学堂、寮の食堂で昼食	日文学科の授業
金曜/5日目	語学堂、寮の食堂で昼食	日文学科の授業、友達と夕食
土曜/6日目		カフェで勉強
日曜/7日目		近くの湖で花見



光州旅行

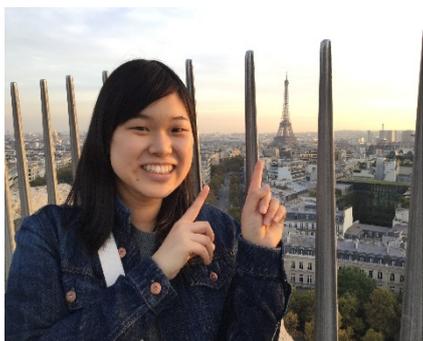


体育大会



ソルビン

「私のボルドー体験記」



留学先： フランス／ボルドー
ボルドーモンテニュ大学
留学期間： 2016年9月～2017年5月

留学した時の学年： 2年
学部・研究科名： 人文社会科学部
学科・課程名・コース名： 国際文化課程
欧米言語文化コース

●留学の内容

留学中は、外国人向けの語学学校に通いました。講義は、フランス語の授業はもちろん、地理や文学、食文化などについての授業もありました。月に一回ほどのペースで、学校主催の遠足もありました。ボルドーから少し離れた地域など、自分たちの足ではなかなか行けないような場所に行くことができ、とても良い経験ができました。放課後や休日は、友人と町へ出かけることが多かったです。トラムという路面電車を使い、毎回行ったことのない場所へ行きました。また、毎週日曜日は市場が開かれており、新鮮な食材や出来立てのパンやお惣菜を求めてよく足を運びました。留学中はとにかく、毎日多くの外国人と交流をしたり、今までにない発見や経験をすることができました。

●留学の動機

私はもともとフランスの建造物に興味があったことがきっかけでフランス語を選択し学んでいました。学んでいくうちにもっと話せるようになりたいと思ったのはもちろんのこと、フランスで生活をして、フランス文化を五感で感じたい、さらに日本を客観的に見てみたいと思い留学しようと思いました。

●留学の成果

留学を通して語学力はもちろん、性格的な面でも変わることができたと思います。意見を持つことや積極的に行動するところは留学以前にはあまり見られませんでした。また、好奇心もより旺盛になったと思います。気になるものは自分で確かめたり、より知識を増やそうと勉強してみたりと関心の幅が広がりました。

●スペシャルエピソード

私は留学先のボルドーという町の良さに感動しました。とても大きな町ではないけれど、見どころはたくさんあり、素敵な人や建築物、景色で囲まれた町でした。特に、ガロンヌ川という大きな川沿いにある水鏡というところはとても幻想的で、私は何度も足を運んでのんびりとした時間をそこで過ごしました。天気の良い日は外に出ないともったいないと思うくらい、見どころたくさん場所でした。

●これから留学したい人へアドバイス

少しでも留学に興味があったらぜひすることをお勧めします。語学力や海外生活は想像できないし不安でいっぱいだと思います。しかし、実際に行ってみるとその不安を吹き飛ばすくらいの楽しさと素晴らしい経験であふれると思います。一日一日を大切に、今できることをするというのが一番大切だと思います。

●留学費用について

①総費用：約1000000円

(内訳 渡航費 140000円、宿舍費 約 30000円/月(光熱水費込)、食費・日用品 30000円/月、ビザ・保険料 170000円、交通費(公共機関定期券) 25000円、その他旅行や娯楽)

②費用負担 自己負担 100000円、親からの支援 200000円、留学奨学金 80000円/月

③使ったお金の割合：現金 10%、クレジットカード (VISA) 90%

●留学先宿舎について

・形態：大学寮

・家賃額：月 243ユーロ (光熱費含む)

・参考情報：入居前に、キッチン共用タイプか個室タイプか選択できる。前者は、一つの階に5部屋あり、キッチンと冷蔵庫を共同で使用。部屋は、机・椅子・ベット・棚・クローゼット・シャワー・トイレ・洗面台が設置されている。様々な国の人が利用している。

●語学力について

・現地で使用した言語：フランス語

・語学レベルUP：聞き取りや会話のレベルが来たときよりもスムーズに行えるようになった。

・適正レベル：挨拶や基本的な会話など、初級フランス語ができれば大丈夫だと思われる。

●ネット環境及びその他の参考情報

・WIFIは、寮や学校、市内の飲食店や商業施設にも完備されていた。パソコン、スマートフォンは日本で使っていたものをそのまま持っていき使用していた。スマートフォンは海外での契約を確認する必要がある。

・現地から送られてきた書類などは、原本含めコピーしたものと一緒に持って行った。持ち物は、電気ポットや空気が乾燥しているので使い慣れたクリームなど、また薬も日本で使っているものを持っていくと安心できる。

●留学中の主なスケジュール

曜日/日程	午前	午後
月曜/1日目	フランス語の授業、学食ランチ	ボルドー市内を散策
火曜/2日目	フランス語の授業	散策、ショッピング
水曜/3日目	課題	ハンドボールクラブに参加
木曜/4日目	フランス語の授業	フランス人の友達によるフランス語確認
金曜/5日目	フランス語の授業、学食ランチ	フランス語の授業
土曜/6日目	友達とお出かけ	
日曜/7日目	市場で買い物	散策、食料買い出し



写真①水鏡



写真②クラスの人とパーティー



写真③パン屋に並ぶケーキ

「Mon séjour à Bordeaux en France」



留学先：ヨーロッパ／フランス／ボルドー／
ボルドー・モンテーニュ大学
留学期間：2016年 9月～ 1月
(半年)

留学した時の学年：大学3年
学部・研究科名：人文社会科学部
学科・課程名・コース名：国際文化課程欧米言語
文化コースフランス言語文化

●留学の内容

フランス・ボルドーへの長期交換留学プログラムです。ボルドー・モンテーニュ大学というところに留学をします。留学決定から7月末までは留学の準備期間、9月1日前後に日本を出て、半年または1年間の留学を経て帰国という形になります。ボルドー大学で取得した単位は岩手大学のフランス語系の科目に12単位または24単位で振り替えることができます。普段の授業は、大学の付属語学学校のデーフル（DEFLE）で行われます。テストの結果を受けてクラスが分かれるため、自分のレベルに合わせた少人数の参加型の授業を受けることができます。様々な国の留学生、フランス人学生との交流が可能です。

●留学の動機

大学1年生の頃から第二外国語として学んできたフランス語でのコミュニケーション能力の向上とフランスの文化に触れることです。1年生の時に短期の語学研修で一度フランスを訪れたことがきっかけで長い期間フランスの地で学びたいと考えました。

●留学の成果

語学力は留学前と比較して上達したと感ずますし、文化にも触れられたのではないかと思います。しかし留学は、語学力を向上させることや文化に触れることももちろん大切ですが、それ以上に、多くのことに興味を持ち挑戦し、自分の身になるものを積極的に取り入れていくことが大切だと教えてくれました。さらに人とのつながりがとても大切であるところの留学を通して学びました。留学期間中、日本にいるよりも多くの人との出会いがあり、たくさんの人と関わることで経験を積めました。フランス人やほかの国の人たちの私にはない価値観や考え方に触れ、人と関わることの楽しさを覚えました。

●スペシャルエピソード

私の留学した街ボルドーは、ワインで有名な場所でした。周りにはワイン畑やワインの貯蔵庫、ワインに関する施設などがありました。スーパーやデパート、マルシェにワインがずらりと並んでいる光景は当たり前でしたし、ワイン専門のお店が街中にいくつもありました。友人に招待されたクリスマスパーティーで料理に合わせてワインを変えながら飲む姿はまさに、「美食の国フランス」といわれる所以だなと思っても感動しました。

●これから留学したい人へアドバイス

少しでも留学に興味を持った人はぜひ挑戦してみてください。そしてたくさんの人たちと関わり自分の考えの幅を広げてみてください。挑戦することは簡単なことではありませんが、きっと自分の身になるはずですよ。新しいものを目にする、今まで知らなかった言葉を聞いたり発見すること、新しい土地を知ることはとても面白いですよ。留学を終えて思うのは、留学をしてよかった!またフランスに行きたい!ということです。

● 留学費用について

①総費用：約635,950円

(内訳 渡航費 143,840円/往復、ビザ 約7,000円、保険料 86,110円(JTB)、25,000円(ボルドー大学指定)、学費 0円、宿舍費 約28,000円/月(光熱水費含む)、食費 約25,000円/月、娯楽費(旅行、お土産含む) 約100,000円、ボルドー内移動費(トラム) 約15,000円、Wifiルーター 47,000円)

②費用負担 自己負担 約15万円、親からの支援 約17万円、留学奨学金(JASSO) 8万円/月

③使ったお金の割合：現金 30%、クレジットカード (VISA) 20%、トラベルプリペイドカード (キャッシュパスポート) 50%

● 留学先宿舍について

・形態：大学寮

・家賃額：月額 約28,000円 (光熱水費含む)

・参考情報：ベッド(マットのみ)、シャワー、トイレ、冷蔵庫、電子レンジ、ロッカー、学習机。新しくきれい。少し狭いが問題なし。多国籍。

● 語学力について

・現地で使用した言語：フランス語

・語学レベルUP：留学前はフランス語でコミュニケーションをとることに自信がなく常に不安が伴っていました。しかし留学を終えてからは、自信が持てるようになりましたし積極的にフランス語を使いたいと思うようになりました。留学前と比較すると、聞く力はつきましたが、話す力はもう少し勉強が必要だと感じます。

・適正レベル：語学学校では、各自のレベルに合わせて入門から上級までのクラスに分かれるので心配なく授業を受けることができます。日常生活では、もちろん全てフランス語なので話せば話せるほど損はないと思います。

● ネット環境及びその他の参考情報

・パソコン、携帯電話は持っていました。大学の図書館にもパソコンはあります。街中・大学内・大学寮にWifi環境は整っていましたが電波が弱かったり使えなかったりすることもありました。私はヨーロッパ圏で使えるWifiルーターを日本から持っていました。旅行中も使えたため便利でした。

● 留学中の主なスケジュール

曜日/日程	午前	午後
月曜日	文法・口頭理解の授業	
火曜日	文法・口頭理解の授業	
水曜日	休み	
木曜日	ボルドー大学マスター1年生の授業のボランティア	口頭理解・文化理解の授業
金曜日	文章形成・文化理解の授業、学食でランチ	文章理解の授業
土曜日	学校主催の遠足、ショッピング、旅行、など	
日曜日		



DEFLE



ブルス広場の水鏡



ワインの街ボルドー

「"月の都ボルドー"で実り多い留学体験」



留学先： フランス／ボルドー／ボルドー・モンテーニュ大学付属
D E F L E

留学期間： 2016年9月～2017年1月
(6か月)

留学した時の学年： 3年（後期）

学部・研究科名： 人文社会科学部

学科・課程名・コース名： 国際文化課程・フランス言語文化コース

● 留学の内容

ボルドー・モンテーニュ大学付属のD E F L E（外国人向け語学学校）に交換留学生として約5か月間在学しました。留学中は大学付属の寮に滞在し、授業では主にフランス語文法・読解・聴解・作文・フランス文化について勉強しました。大学には様々なことを学びに年齢・国籍を問わずたくさんの方が来ており、日常的に多文化の中に身を置くこととなります。

● 留学の動機

自分の専攻がフランス語であることから、語学力アップを主な目的として留学に参加しました。また、海外に長期滞在し、自分の力を試す良い機会だと思い留学を決意しました。

● 留学の成果

当初の目的である語学力については、リスニング・スピーキングが一番伸びたと感じました。また、さまざまな国籍のクラスメイトやフランス社会に触れ、普段意識しない人種、移民といったテーマについて考えるきっかけができたと思っています。

● スペシャルエピソード

以前岩手大学に留学しに来ていたフランス人の友人が、クリスマスに自宅に招待してくれて、友人家族と一緒に一日を過ごしたことがとても感動しました。フランスではクリスマスは一年でとても大切なイベントであり豪華な飾りつけや特別な食事を用意するため、日本とは全く違う文化を感じられる特別な日でした。

● これから留学したい人へアドバイス

何のために留学するのか、テーマを決めて勉強すると良いと思います。留学の目的は人それぞれですが、自分の世界が広がるチャンスであることは間違いなくと思います。

また、家族や周囲の協力者あってこそその留学であるということは理解しておきましょう！

● 留学費用について

①総費用：約70万円

(内訳 渡航費140,000円、寮費120,000、食費60,000、その他生活費100,000、旅行費110,000、ビザ申請20,000円、保険料90,000他)

②費用負担 自己負担金100,000円、親からの支援500,000円、留学奨学金100,000円

③使ったお金の割合：現金50%、クレジットカード (VISACARD, MASTERCARD) 50%

※フランスは基本的にどこでもカードが使えますが、マルシェやコインランドリーは現金のみの場合が多いです。

● 留学先宿舎について

・形態： 大学寮 (休暇中はホテル、友人宅に滞在)

・家賃額： 月額30000円 (水道・光熱費含む)

・参考情報： 部屋はベッド・デスク・クローゼット・シャワー・トイレがあり、ワンルームタイプ。棟によって共用キッチンか部屋に備え付けの電子レンジがどちらか利用できる。洗濯は寮のランドリー (有料) か普通のコインランドリーを利用する。1回につき2～5€。

● 語学力について

・現地で使用した言語：フランス語

・語学レベルUP：留学前 D E L F A 1～A 2→留学後 D E L F B 1

・適正レベル：D E L F A 2くらいであればなんとなく生活できます。B 1以上あれば日常生活で困ることはあまりないと思います。

● ネット環境及びその他の参考情報

・持参したもの：携帯端末 (iPhone)、私物パソコン。大学構内と大学寮にwifi設備があるため基本的にはネット環境は良いです。(※稀に電気工事や停電でネットが使えないときがあるかもしれないので注意！)

・長期旅行に行きたい場合は、レンタルwifiなどを利用して連絡手段は確保しておいたほうが安心です。

● 留学中の主なスケジュール

曜日/日程	午前	午後
月曜	授業 (文法・語彙)	授業 (口頭表現)
火曜	授業 (文法・聴解)	授業 (聴解・口頭表現)
水曜	午前休み。洗濯、勉強など。	授業 (文化)
木曜	授業 (語彙)	授業 (作文)
金曜	授業なし。洗濯、買い物、一週間の復習	友人と食事など。
土曜	休日 街中の散策・買い物	スーパーで自炊のための食材を買いだめします。
日曜	休日 マルシェで買い物	日曜は大体の店が休みなのでゆっくり過ごします。



教会から、ガロンヌ川両岸に広がるボルドー市中心部が一望できます。



クラスは20人前後。アジア、中東、南米など世界各国から生徒が集まります。



長期休暇を利用してパリを訪れ、友人に会いに行くこともできました。

「ボルドー留学体験記」



留学先：フランス／ヌーヴェル＝アキテーヌ／ボルドー／ボルドーモンテーニュ大学

留学期間：2016年 9月～12月
(3か月)

留学した時の学年：3年

学部・研究科名：人文社会科学部

学科・課程名・コース名：国際文化課程

●留学の内容

大学の交換留学を利用したため、現地での学費はかからなかった。現地では、授業開始前にレベル分けテストを受け、自分のレベルに応じたクラスへ配属となる。クラスごとに授業内容が異なるが、必修の音声学、文法、読解、聴解、口頭表現、作文、文化と、選択科目ビジネスフランス語、観光フランス語を受講した。学校生活は、学生寮で生活し、クラブ活動に入ることも可能。

●留学の動機

大学入学時から留学に行ってみたくて考えていたことに加え、フランス言語文化を専攻しているため、現地を実際に訪れ、文化や価値観のちがいを実感しながら自分のフランス語力を向上させたいと考えたため。

●留学の成果

ボルドーモンテーニュ大学への留学を通じ、フランス語力が向上したのはもちろんのこと、現地の人々との交流を通じてコミュニケーション能力や積極性も少なからず高められたのではないかと感じる。また、現地で実際にフランス語に触れながら生活できる機会は、語力・コミュニケーション能力ともに向上心を高める非常に貴重な機会となった。

●スペシャルエピソード

頻繁に通っていたカフェのマスターと親しくなり、異国での生活を気にかけてくれたり、帰国時にプレゼントを用意してくれた事が、現地の人々の中に溶け込めたように感じ嬉しかった事を覚えている。また、小学校での日本語と日本文化の授業の依頼を受け、貴重な経験をさせていただいた。

●これから留学したい人へアドバイス

私自身、授業や生活に不安を抱えてはいたが、実際に生活してみると毎日が発見と出会いの連続で、日々生き生きとした生活を送っていた。留学を考えている皆さんには、ぜひ、新しい環境へ飛び出し、様々な発見をして欲しい。

● 留学費用について

①総費用：約661,370円

(内訳 渡航費141,370円、学費0円、宿舍費約120,000円、光熱水費0円、食費約100,000円、ビザ・保険料約150,000円、お土産代他約150,000円)

②費用負担 自己負担約341,370円、親からの支援0円、留学奨学金320,000円

③使ったお金の割合：現金30%、クレジットカード (VISA) 15%、トラベルプリペイドカード (キャッシュパスポート) 55%

● 留学先宿舎について

・形態：大学寮

・家賃額：月 約30,000円 (光熱水費含む)

・参考情報：ベッド (マットのみ)、シャワー・トイレ、冷蔵庫、電子レンジ付き。新しい。多国籍。

● 語学力について

・現地で使用した言語：フランス語

・適正レベル：大学は、テストで自分に適したクラスが決定するのでフランス語学習レベルは問われないが、街中では英語が話せない人もいるので、その点に注意が必要。

● ネット環境及びその他の参考情報

・大学と寮にはWi-Fiが備わっているので、特に準備する必要はなかったが、たまに寮のWi-Fiが繋がらなかつたり小旅行に出る事もあるので、ポケットWi-Fiや現地のSIMカードを用意するのも便利だと思う。

・寮はタイプによって異なるが、コンロがないタイプもある。また、布団や調理器具は自分たちで用意しなければならない。

● 留学中の主なスケジュール

月曜/1日目	音声学の授業、寮または学食でランチ	音声学の授業、買い物、予習
火曜/2日目	読解、作文の授業 寮または学食でランチ	文法の授業、予習
水曜/3日目	全休のため、買い物や観光など	買い物や観光など
木曜/4日目	観光フランス語の授業、寮または学食でランチ	聴解、口頭表現の授業、予習
金曜/5日目	文化の授業	午後休のため、ランチや買い物、観光など
土曜/6日目	買い物や観光など	買い物や観光など
日曜/7日目	マルシェで買い物	予習



授業を受けていた施設 DEFLE



ボルドーの名所 水鏡



訪問した小学校で

「交換留学～My Life at Earlham～」



留学先： アメリカ合衆国／インディアナ州／リッチモンド／アールム大学

留学期間 2016年9月～ 2017年5月
(8か月)

留学した時の学年：3・4年

学部・研究科名：人文社会科学部

学科・課程名・コース名：国際文化課程・英米文化コース

● 留学の内容

私はアールム大学には交換留学生として留学したので、留学生のために設けられた英語の授業と正規生が受ける授業を一年に渡って履修しました。個人的に社会学に興味があったので、留学中は社会学関係の授業をなるべく履修するようにしました。授業の他にも、音楽のアンサンブルグループに所属し学校や近くの教会でパフォーマンスを何回かしました。また、学内サッカーのチームにも入っていたので暇な時間は練習をしたり、ジムで筋トレをしたり充実した毎日を過ごすことができました。

● 留学の動機

元々、高校生のときから留学生を受け入れていて、英語が好きだったのでいつかはアメリカの大学で勉強をしたいと思っていました。アールム大学は小規模で、留学生のサポートが充実していると聞いたので、そのことを知った時からアールム大学に留学したいと強く思うようになりました。

● 留学の成果

留学生活は本当に辛く、一年間午前3時前に就寝したことはほとんどありません。学術的な英語の論文を読むのには時間がかかり、夜通しで勉強していたことが頻繁にありました。しかし、それがあったからこそ、アカデミックイングリッシュを読むことに慣れ、今ではどのようにすれば早く読めるのかが分かるようになりました。また、音楽のアンサンブルグループやサッカーチームなど、様々な課外活動に参加したので留学をする前よりも積極性を身につけることができました。

● スペシャルエピソード

留学先で一番困ったことは、インフルエンザにかかったことです。38度以上の熱が5日ほど続き、授業には出られないような状態でした。保健室が学内にはあったのですが、「たぶん、インフルエンザだろう」という曖昧な診断がされ、薬局も大学の近くにはなく薬を服用しないでインフルエンザを乗り越えました。体調が完璧に回復するには約10日間ほどかかり、とても辛かったです。高熱で歩けなくて、ご飯は学食の食べ物を友達から持ってきてもらいました。（本当は学食の食べ物を持ち帰るのは禁止でしたが…。）

● これから留学したい人へアドバイス

留学は楽しそう！と思っている方も多いと思いますが、実際課題が多いときや自分の体調が悪いときは想像を絶するほど辛いです。日本にいるときから自己管理をしっかりできるようにしたほうが、海外でより充実した日々を過ごせると思います。

● 留学費用について

①総費用：197万3千円

(内訳 渡航費40万円、学費50万円(岩手大学の授業料)、宿舎費100万円、ビザ・保険料7万3千円)

②費用負担 親からの支援200万円、留学奨学金80万円

③使ったお金の割合：現金20%、トラベルプリペイドカード(キャッシュパスポート) 80%

※アラムの場合、周りに何もないので旅行以外にお金を使うことはほとんどありません。しかし、教科書代で每学期2万円ほど出費がかさみます。

● 留学先宿舎について

・形態：大学寮

・家賃額：各学期50万円程度

・参考情報：寮の部屋は、シングル・ダブル・トリプル・クオッド(四人部屋)の4種類があります。交換留学生の場合だと、ダブルかトリプルの部屋しか選べません。お風呂はシャワーのみで、同じ階に住んでいる人と共同で使います。寝具は大学のサイトで、留学前に購入することができます。

● 語学力について

・現地で使用した言語：英語

・語学レベルUP：まだ検定などを受けていないので分かりませんが、アメリカの大学の授業に滞りなくついていけるようになりました。

・適正レベル：TOEFL ibtが75点以上あれば良いと思います。

● ネット環境及びその他の参考情報

・インターネット回線は大学にあるので問題ないです。

・旅行に行った際、インターネットがないとスマートフォンを持っていても意味がないので、あらかじめ日本国内で、海外にいても使えるsimカードを買った方が良いでしょう。おすすめはHanacellという会社のsimカードです。

● 留学中の主なスケジュール(春学期)

曜日/日程	午前	午後
月曜	社会心理学の授業、昼食	翻訳論の授業、楽器の練習、カフェでのボランティア、学内サッカーの試合、夕食、勉強
火曜	Life time wellnessの授業、昼食	ジム、勉強、夕食、勉強
水曜	社会心理学の授業、昼寝	チュータリング、夕食、学内サッカーの試合、勉強
木曜	勉強、昼食	翻訳論の授業、夕食、アンサンブルの練習、政治学の授業、インドネシア音楽の授業、勉強
金曜	社会心理学の授業、昼食	勉強、アンサンブルの練習、夕食、勉強
土曜	ランチ、勉強	カフェでのボランティア、夕食、ジム、勉強
日曜	ランチ、部活のミーティング	勉強、夕食、勉強



インドネシアの伝統的な音楽、
ガムランのコンサート



大好きな友達に囲まれて、
ボストンで誕生日を迎えました！



午前1時に皆で夜食！
寮生活ならではの習慣！

「一瞬の留学、一生の記憶」



留学先：アメリカ／イリノイ州／ネーパビル／
ノースセントラルカレッジ
留学期間：2016年 8月～ 3月
(8か月)

留学した時の学年：3年
学部・研究科名：教育学部
学科・課程名・コース名：英語科

● 留学の内容

学費を岩手大学に納めて留学先の授業を受け、そこで取った単位を戻ってきてから交換してもらう交換留学をさせていただきました。8月いっぱいはいはE L Iプログラムといった語学としての英語を学び、9月からは、主に英語教育についての授業をネイティブと一緒に受けさせてもらえました。秋学期と冬学期の間に一か月間の冬休みがあり、ここではニューヨークに旅行に行き、アメリカを堪能することができました。

● 留学の動機

高校英語教師になるために語学力を伸ばしたかったからです。

● 留学の成果

英語を学びに行ったつもりが、世界中から集まる学生とアカデミックな授業を受けることで、いつの間にか英語を使って専門的な知識や考え方を学んでいるようになり、結果として英語力向上につながったと思います。

● スペシャルエピソード

留学先では、大学内にリスやウサギ、夜にはスカンクなどがでてくるようなところでした。また、日本語専攻の学生のチューターを任せられていて、日本の文化や行事、アニメ、漫画などについて、日本人でも知らないようなことを知っているのに驚きました。

● これから留学したい人へアドバイス

Language is just one of the ways to communicate with people around the world!!

● 留学費用について

①総費用：約200万円

(内訳 渡航費15万円、学費0円、宿舍費60万円、食費20万円、旅費やその他生活費など55万円…)

②費用負担 自己負担30万円、親からの支援150万円、留学奨学金10万円

③使ったお金の割合：現金10%、クレジットカード(VISA)10%、トラベルプリペイドカード(グローバルTカード)80%

● 留学先宿舎について

・形態：大学寮

・家賃額：月10万円(光熱水費含む)

・参考情報：2~4人部屋で寮の場所によって特徴が変わる。私のところは、トイレ・シャワーが部屋の中にあつた。

● 語学力について

・現地で使用した言語：英語

・語学レベルUP：4技能すべての面でかなり伸びたと思う。

・適正レベル：TOEFLiBTで70点は必要。

● ネット環境及びその他の参考情報

・大学内にwifiあり。パソコンは授業でのプレゼンテーションやレポート提出に必須。部屋の中ではスリッパになることが多いのであったほうがいいのかも。日本からのお土産を友達にあげると喜ぶ。

● 留学中の主なスケジュール

曜日/日程	午前	午後
月曜/1日目	スポーツ運動学の授業、学食ランチ	教育系の授業、ジムで運動
火曜/2日目	英米文学の授業	E S Lの授業
水曜/3日目	体育系の授業	教育系の授業、スポーツ
木曜/4日目	ライティングの授業	体育系の授業
金曜/5日目	E S Lの授業	教育系の授業
土曜/6日目	ショッピング	ジムで運動
日曜/7日目	部屋でゴロゴロ	図書館で課題



インターナショナルの学生



大学のメインビルディング



シカゴの町並み

「目標実現の理想と現実 うれし涙と悔し涙」



留学先：カナダ ノヴァスコシア州 ハリファクス
Saint Mary's University
留学期間：2016年8月～2017年4月
(8か月)

留学した時の学年：4年
学部・研究科名：人文社会科学部
課程名・コース名：国際文化課程
欧米言語文化コース

●留学の内容

前期はUBP(University Bridge Program) Courseという語学学校に通いながら大学の授業を1つ取ることができるコースを受講していました(TOEFLiBTやIELTSの点数によって受講コースが異なる)。後期から通常の大学の授業を履修していました(宗教学2つ、心理学1つ、哲学1つ)。その間に街の散策をしたり、フィールドワークの一環で教会に足を運んだり、イベントへ積極的に参加したり、日本とカナダの文化交流をするサークル活動もしていました。ハリファクスを知り尽くそうと思って旅行には全く行きませんでした。旅行ではなく留学だから、もちろん楽しいことばかりではありません。時には辛くて泣いたり、勉強についていけず苦しんだり悩んだりすることもたくさんありました。でも諦めたりせず精一杯やったことで、勉強だけでなく人間として一回り成長できた気がします。一日一日がとても濃かったので、今でも留學生活の日々を鮮明に思い出せます。

●留学の動機

宗教学を学びたいと思ったのが一番の動機です。岩手大学では宗教学の授業が開講されていないので、それを勉強するためにSaint Mary's Universityを選びました。ご存知の通り、カナダは様々な国や地域から移民を受け入れています。そのため街にはそれぞれの宗教の教会や施設が多くあります。それらの施設に行くとフィールドワークも行おうとしていたため、やりたいことが全部できる最適な環境があると思ってここを選びました。

●留学の成果

大学で学んだことから宗教にもっと関心を持つようになり、それに関連して世界で起きてる紛争や戦いにもっと目を向けるようになりました。また政治に関心を持つ友人の影響もあって、政治や政策に興味を持ちました。授業もコミュニケーションを取ることも全て英語なので、英語の力は行く前と比べるとすごく上がったと実感しています。特にリスニングはすごく上がりました。また英語を勉強し続けないと力は維持できないと強く思いました。人に流されたり曖昧にしたりせず、自分の意見をはっきり持てるようになったことも、留学で得た大きな財産だと感じています。

●スペシャルエピソード

ここでは留學生活を安全に過ごすために、私自身が経験した“ひったくり”についてお話します。ひったくりに遭って私は意識を失い、救急車で病院に搬送されました。治安のよい地域だと油断していて、危険なことに自分に関わらないだろうと、他人事のように考えていました。幸い何も取られずケガも軽傷で済みましたが、本当に怖かったです。今でも思い出すと体が震えます。**絶対に夜間に一人で歩いてはいけません！そしてイヤホンをつけて音楽を聞きながら夜散歩しないでください。**私は夜一人で歩いて音楽を聞いていたからこんな危険なことに巻き込まれてしまったのです。身の安全を第一に考えて生活することが、一番大事だと留学で気づかされました。

●これから留学したい人へアドバイス

派遣留学を希望する人はまず英語以外でやりたいこと、勉強したいことを見つけるべきです。そして選ぶ大学や都市についても明確な理由を持っているとより良いと思います。英語を勉強するのは理由になりません。それは当たり前のことだし、英語の勉強は語学学校や日本でもできます。少しでもハリファクスやSaint Mary's Universityに関心があれば相談に来てください。そして安全に生活できるように注意してくださいね。

● 留学費用について

①総費用：約170万円

(内訳 渡航費19万円、学費30万円(語学学校の費用のみ)、宿舍費58万円、光熱水費0円、食費15万円(カフェテリア利用のみ)、ビザ・保険料 約20万円、その他30万円) ※1CAD\$=85円とする

②費用負担 自己負担50万円、親からの支援(教育ローン)120万円、留学奨学金0円

③使ったお金の割合：現金15%、クレジットカード (VISA) 80%、トラベルプリペイドカード(Master) 5%、その他(救急病院への搬送費用) 0% (保険で全額負担)

● 留学先宿舍について

・形態：大学寮

・家賃額：半期 29万円 (光熱水費なし) 1CAD\$=85円とする

・参考情報：家具設備完備、食器とリネン類は一切なし、利用できる施設はジム、図書館、備え付けのPCがあるラウンジ(24h)、カフェテリア、大学付属のバー、アイスホッケー場、75\$を学校に払えば1年間市内のバス乗り放題、カフェ、光熱水費無し、宿舍の特徴(部屋の割り当てにもよるが、きれいな、広い、多国籍、大学と直結だから冬は寒い思いをしなくてOK!)

● 語学力について

・現地で使用した言語：英語

・語学レベルUP：リスニング...かなり上達、スピーキング...発音はだいぶ良くなり、自分の意見を単語ではなく文で言えるようになる、他はほとんど変わらず

・適正レベル：TOEFLiBT60以上ないと大学の授業が受けられないから、最低でも62は取っておくべき!

● ネット環境及びその他の参考情報

・私物のパソコンは持っていく方が良く、携帯は日本で使用しているものでも十分大丈夫(必ず機内モードにし続けること)、無料のWifiがある程度使えるからわざわざ現地の携帯を契約する必要はない、24時間使えるパソコンがあるラウンジ有り

● 留学中の主なスケジュール

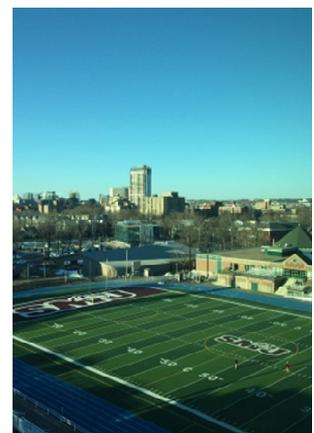
曜日/日程	午前	午後
月曜/1日目	Philosophyの授業	Religionの授業、友人と英語の練習も兼ねた時間
火曜/2日目	Religionの授業	Psychologyの授業、買い物
水曜/3日目	Philosophyの授業	Religionの授業 友人と英語の練習も兼ねた時間
木曜/4日目	Religionの授業	Psychologyの授業、サークル活動、外食
金曜/5日目	授業なし、リラックスする時間	授業なし、友達と外出
土曜/6日目	街の散策orリラックスの時間	友人との時間、一緒に夕飯
日曜/7日目	授業の復習	授業の課題



Farewell party



ハロウィン
大好きな友達 タイラーと



寮から見た大学の景色

短期留学

岩手大学生 留学体験談

「フランス アンジェでの課題解決型海外研修&ホームステイ」



留学先：フランス／アンジェ／
西部カトリック大学
留学期間：2017年 2月～3月
(3週間)

留学した時の学年：1年
学部・研究科名：人文社会科学部
学科・課程名・コース名：人間文化課程

● 留学の内容

フランスの少し小さな都市・アンジェ市にある西部カトリック大学に付属する語学学校にて3週間（15日分）の授業を受け、各自で用意した課題を解決する研修です。アンジェに滞在する間はホームステイをさせていただき、フランスの家庭生活を味わうこととなります。学校が主催するエクスカション（遠足）にも参加することができ、タイミングが合えば世界遺産ヴェルサイユ宮殿やモン＝サン＝ミシェル、ロワールの城巡り、チョコレート工房の見学などができます。研修の前後にパリに滞在し観光することも可能です。先生による引率がないため、自分の行動力、生きる力が自然と身についていく良い機会にもなります！

● 留学の動機

第二外国語として選択しただけのフランス語にどっぷりはまってしまって、語学力を上げたいと強く思ったこと、初めての海外とホームステイには学校の研修が安くて安心（そして単位ももらえる）だと感じたからです。

● 留学の成果

フランスで言葉が通じるようになったこと、他の文化を持つ家族とともに過ごして考えが広がったこと、学生だけで飛行機や国内移動ができて自信がついたこと、語学学校で様々な国の友人ができたこと、日本が好きだと思えたこと・・・経験したことすべてが大切な収穫です。

● スペシャルエピソード

様々なトラブルを想定してはいたつもりでしたが、まさか胃腸炎になるとは思いませんでした(笑) ホストファミリーに恵まれ、優しく看病していただきました。また離れた街に泊まって海に行ったり、帰国のときにアルバムを作ってプレゼントしてくれたりというホストファミリーとの素敵なエピソードはたくさんあります！

● これから留学したい人へアドバイス

長期留学をするのが難しくても、この研修には負けず劣らず海外研修の魅力が詰まっています。フランスの穏やかな街で素晴らしい日々を送ってみませんか？

● 留学費用について

①総費用：355,240円

(内訳 渡航費130,130円、学費+ホームステイ(朝・夕食含む)176,040円、食費10,000円、保険料9,170円、お土産代他30,000円) ※1ユーロ=約122円の時の計算

②費用負担 自己負担275,240円、留学奨学金80,000円

③使ったお金の割合：現金70%、クレジットカード(VISA) 30%

現金の残りを見ながら、クレジットカードが使えるところではカードも使っていました。

● 留学先宿舎について

・形態：ホームステイ(授業料と一体)

・家賃額：3週 額 176,040円(朝・夕食、光熱費、授業料含む)

・参考情報：設備は家庭によって変わる、自分の空間は保たれる、電気や水を使いすぎない配慮は必要

● 語学力について

・現地で使用した言語：フランス語

・語学レベルUP：行く前に仏検4級を取得し3級を勉強中だったが、帰国して3ヶ月後に2級と準2級において一気に合格できました。岩大で授業がオールフランス語でも物怖じせず発言できるようになったと思います。

・適正レベル：初級フランス語の履修はしておかないと、現地に行くまでも大変だと思います。

● ネット環境及びその他の参考情報

・学校で岩大のようなシステムの安全なWi-Fiが利用できます。街中のお店や空港のFreeWi-Fiはうまく繋がらなかつたり安全が保証されていなかったりするため、必要なひとはポケットWi-Fi(フランスに1ヶ月の場合:約2万円)を借りて持って行くのも手です。

・世界遺産の施設などは大きい荷物・リュックが禁止のところもあるので小さい鞆があるといろいろなところで重宝します。

・変換プラグは必須ですが、変圧は必要ないです(充電器はフランスでもそのまま使用可能なのと、ドライヤーやヘアアイロンは変圧器で対応できずどうせ海外使用可のものを用意する必要があるため)

・自分の体質に合った薬があったほうが安心です！

● 留学中の主なスケジュール

曜日/日程	午前	午後
月曜/1日目	授業が無くゆっくり登校。学校のカフェテリアで昼食。	Langue(語学)とPhonétique(フランス語の音声学)
火曜/2日目	Grammaire(文法)とLangueと面談。購買で昼食を買う。	LangueとCompétences écrites(読解)
水曜/3日目	PhonétiqueとExpression orale(口頭表現)	ホストファミリーと買い物や家で映画鑑賞
木曜/4日目	GrammaireとExpression orale	Compétences écritesとLangue
金曜/5日目	GrammaireとExpression oraleとLangue	友人と外で昼食や買い物
土曜/6日目	ホストファミリーとお城や海へ	ホストファミリーとサイクリングや散歩
日曜/7日目	遠足がある週末も	ホストファミリーと一緒に菓子作りなど



パリ観光!!!



クラスメイトと



ホストファミリーからのアルバム

「本当の『知識』を求めて」



留学先：国／フランス 地域／ロワール県
都市／アンジェ市
機関 西部カトリック大学所属語学センター
留学期間：2017年 2月～ 3月
(1か月)

留学した時の学年：1年
学部・研究科名：人文社会科学部
学科・課程名・コース名：人間文化課程

● 留学の内容

フランス西部に位置するロワール県アンジェ市にある、西部カトリック大学の語学学校での3週間の語学研修がメインの短期留学でした。

3週間アンジェ市内の家庭にホームステイし、平日は語学の授業を受け、休日はホストファミリーと過ごしました。平日の授業は初回のテストでクラスが振り分けられたので、自分のレベルに合った授業が受けられました。授業内容は発音、口頭表現、口頭理解などがあり、毎日だいたい9時から16時までの日程でした。

週末にはエスカーション（遠足）がある場合もあり、岩手大学のメンバーはロワールの古城やショコラトリー、ヴェルサイユ宮殿などの見学に参加しました。

● 留学の動機

自分とは大きく異なる出自・文脈をもつ人々の生きる社会に飛び込んで自身の見聞を広げたいと思ったからです。また、1年間学んだフランス語で実際にコミュニケーションを取りながら現地で生活してみたかったことも理由にあります。長期休みや海外留学の奨学金が決断を後押ししてくれました。

● 留学の成果

毎日の授業とホストファミリーとの会話で自分の語学力が上達していることを実感しました。それに加えて、フランスに暮らす人々や彼らの文化と深く関わりを持つことは本当に貴重な経験だったと感じています。フランス人の政治意識の高さや環境に対する意識の高さは大きな刺激になりました。

● スペシャルエピソード

授業初日、帰り道で迷子になりました。道行く人に声をかけて助けをもらい、なんとか帰ることが出来ました。スマートフォンで地図を検索してくれた方もいらっしゃり、アンジェの方々の親切さが心に沁みました。

また、ホームステイ先で「環境のためにシャワーは5分で済ませてね」と言われた時には日本人とフランス人の環境意識の差に驚きました。

● これから留学したい人へアドバイス

経済面や他の行事との兼ね合いが厳しいということはあると思いますが、私個人としては迷っているなら行くべきだと思います。必ず一生ものの経験になります。私は「百聞は一見に如かず」を身をもって体験しました。

「これがしたい！」という思いは海外留学をする上で語学力よりも重要なものだと感じています。

● 留学費用について

①総費用：409,723円

(内訳 渡航費134,550円、学費90,024円、宿舍費(ホームステイ)71,174円、光熱水費0円、食費(昼食代)約7500円、ビザ・保険料19,714円、お土産代・観光費49,220円、エスカーション(3回)19,220円)

②費用負担 自己負担50,000円、親からの支援300,000円、留学奨学金80,000円

③使ったお金の割合：現金75%、クレジットカード (VISAデビュープラスカード) 25%、トラベルプリペイドカード 所持無し、その他 無し

● 留学先宿舎について

・形態：ホームステイ

・家賃額：月額 71,176円 (光熱水費、朝夕食含む)

・参考情報：私のホームステイ先は学校から徒歩20分程度の場所にあるアパートの一室でした。あまり広くはありませんでしたが、古い建物を必要に応じて修理しながら生活しているらしく、洗練されていて過ごしやすい空間でした。

● 語学力について

・現地で使用した言語：フランス語

・語学レベルUP：特にネイティブのフランス語を聞き取る力が向上しました。

・適正レベル：基本的なあいさつと単語と文法さえ出来れば大丈夫だと思います。ただ、現地でネイティブの方々と交流する機会を無駄にしないためにも、それらに加えた知識があるに越したことはないと感じました。

● ネット環境及びその他の参考情報

・私は紛失や故障などのトラブルが怖かったので私物のパソコンは持って行きませんでした。携帯会社の海外利用プランに登録したのでwi-fiルーターなどは持参せず、ほとんどは語学学校とホームステイ先のwi-fiを利用していました。

・航空券やTGV(鉄道)のチケットなどが不安だったのでプリントアウトしたものは念のため2枚ずつ持って行きました。パリ滞在などをしたい場合はパスポートと財布と携帯は常に肌身離さずに持って行ってください。

● 留学中の主なスケジュール

曜日/日程	午前	午後
月曜	発音の授業、語学の授業、学食ランチ	語学の授業、口頭理解の授業
火曜	口頭理解の授業、語学の授業、発音の授業	語学の授業、口頭表現の授業
水曜	口頭理解の授業、語学の授業	口頭表現の授業、発音の授業
木曜	語学の授業	口頭表現の授業
金曜	語学の授業	ホストファミリーと過ごす
土曜	マルシェ(市場) 散策、ホストファミリーと散歩	ホストファミリーと過ごす
日曜	ホストファミリーと過ごす	ホストファミリーと過ごす



授業風景



ホストマザー(中央)と娘さん(左)



パリで見学した美術館

「林業大国ドイツに学べ！」



留学先：ドイツ／シュバルツヴァルト／ロッテンブルグ／
ロッテンブルグ林業大学
留学期間：2017年 9月14日～ 9月26日
(12日間)

留学した時の学年：3年
学部・研究科名：農学部
学科・課程名・コース名：共生環境課程 森林科学コース

●留学の内容

ドイツにおける木を伐採したり運んだりする木材の生産現場から流通先までの見学や、人と森との関わり、環境に配慮した発電、現地の森林官について学ぶことで日本とドイツの森林形態、林業技術、文化の違いを理解することができます。そして今後、森林科学を専攻する上での知識の肥やしになります。他大学と合同プログラムであるため各地の学生と親睦を深めることもできます。

●留学の動機

森林科学科独自のプログラムであり、ドイツの先進的な林業を目の当たりにできる貴重な機会だったからです。

●留学の成果

ドイツでは自然に触れることが生活の一部になっていました。国民の森林への意識の違いが林業の盛衰に繋がるのだと学びました。

●スペシャルエピソード

保安検査場では電子機器や金属類をバッグの外に全て出さないと苦労します笑
毎日、ハム・チーズ・パンの生活だったので白米を食べた時は美味しくて感動しました。
お土産を買うならスーパーやドラッグストアが安くてオススメです。

●これから留学したい人へアドバイス

堂々と自信を持った態度が大切だと思います。自分の意見をハッキリ相手に伝え、分からないことは積極的に質問するとより深く学ぶことができると思います。

● 留学費用について

①総費用：およそ25万円

(内訳 渡航費9万円、学費3万円、宿舍費2万5千円、食費5千円(お菓子や飲み物程度)、ビザ・保険料4千円、お土産代他5万円)

②費用負担 親からの支援4万円、留学奨学金8万円

③使ったお金の割合：現金70%、クレジットカード(ライフカード) 30%

※スーパーや空港でカードを使い、研修中は現金をあまり使いませんでした。

● 留学先宿舎について

・形態：修道院(10日間)、ユースホステル(1日間)

・家賃額：ユースホステルは一泊3500円程度

・参考情報：修道院は想像以上にきれいで快適です。トイレとシャワールームが共同のため入るタイミングが重要です。

● 語学力について

・現地で使用した言語：英語・ドイツ語

・語学レベルUP：英語のアナウンスが聞き取れるくらい

・適正レベル：ドイツ語より英語のリスニング力が必要。林業の専門用語や樹種名の英単語を知っていると楽。

● ネット環境及びその他の参考情報

・ポケットwi-fiを持参しましたが、研修場所によっては山奥で電波は通じません。

・ビールを飲むなら栓抜きは必需品です。現地は硬水なので苦手な人は軟水を持っていくといいです。

● 留学中の主なスケジュール

曜日/日程	午前	午後
日曜/1日目	フランクフルト中央駅集合	持続可能性の家見学、修道院に到着
月曜/2日目	エコパークのナラ林見学	ワインの樽用製材所見学・スーパーで買い物
水曜/3日目	自然電力発電会社(juwi)を見学	風力発電プラント、ブナ林を見学
木曜/4日目	大学にてバイオマスに関する講義	木材チップになる全行程やチップ会社を見学
金曜/5日目	大学にて土壌の講義	ForstBW、Komatsuの方のお話を拝聴
土曜/6日目	集材作業や木材流通の現場を見学	シュバルツヴァルト付近の観光地にて自由行動
日曜/7日目	運材に関する博物館を見学	国立公園で林冠ウォーキング



現地のおもちゃ屋に高性能林業機械のミニカーが！



タワーの頂上からシュヴァルトを一望



下草が少なく歩きやすい！

「グローバルプロ養成プログラム」



留学先：アメリカ／カリフォルニア州／シリコンバレー／
US-Japan Forum
留学期間：2017年 8月23日～9月23日
(1か月)

留学した時の学年：M1年
学部・研究科名：総合科学研究科 地域創生専攻
学科・課程名・コース名：地域産業コース 金型製造プログラム

● 留学の内容

将来国際的な場で活躍する研究者、技術者、医師、教育者、起業家、弁護士、会計士などを養成するための、実践型グローバルプロフェッショナルの養成プログラムである。

・第1週、第2週は米国カリフォルニア州シリコンバレー周辺の企業や教育機関にて、海外で活躍する日本人の指導を受けながら、2週間の夏季実習を体験する。

・第3週はカリフォルニア・イノベーション研修に参加し、米国の大学やベンチャー企業の訪問を通して、イノベーションと異なる文化や価値観を学ぶ。日米未来フォーラムにて、日米交流や世界共通の課題に関する英語発表を行う。

・第4週は各自で企業や大学に訪問アポイントメントをとり、自主訪問学習を行う。・夜は海外で活躍する起業家やコンサルタントによる講演会、研究者や技術者とのディスカッションを行い、国際的な広い視野やキャリア構築を学ぶ。

● 留学の動機

大学院のカリキュラムに、インターンシップとグローバルコミュニケーションの科目があり、また、留学についても先生から勧められ興味があったための自分の目的を同時に満たせるということで今回の参加を決めました。

● 留学の成果

英語によるディスカッションや日常会話でも、人とコミュニケーションをとる方法を言葉だけではなく、ボディランゲージや筆談など様々な方法で人に伝えることが可能であることを身をもって体験することができた。さらに、英語の学習法についても座学ではリーディングやライティングの能力を重視しているが、実践的な場で重要な能力はリスニングであることを研修を通じて英語学習の考え方が変わった。

● これから留学したい人へアドバイス

英語力がないとか気にする必要はないです！

何かを始めるのに“揺るぎない意志”とか“崇高な動機”なんて無くてもいい、チャレンジに必要なのはちょっと好奇心くらいです！

● 留学費用について

- ① 総費用：65万円
(内訳 渡航費12万円、参加費38万円、食費5万円、お土産代10万円、)
- ② 費用負担 自己負担50万円、親からの支援10万円、留学奨学金7万円
- ③ 使ったお金の割合：現金30%、クレジットカード (VISA) 70%

● 留学先宿舎について

- ・形態：ホテル宿泊
- ・客室設備：シーツ、リネン類、アメニティ、テレビ、無料Wi-Fi、コーヒーマーカー、冷蔵庫等、
※屋外プール、スパ浴槽
※歯ブラシ、ヘアドライヤーはありません。
※無料朝食
※洗濯機(\$ 1.5/1回)、乾燥機(\$ 1.5/1回)

● 語学力について

- ・現地で使用した言語：英語
- ・語学レベルUP：CASECのスコアが参加前の2倍に上がった。
- ・適正レベル：中学生英語がわかれば十分。

● ネット環境及びその他の参考情報

- ・ホテルにWi-Fi有
- ・カリフォルニア州は日差しが強かったのでサングラス等を持っていくとよい。

● 留学中の主なスケジュール(イノベーション研修時)

曜日/日程	午前	午後
月曜/1日目	サンノゼ州立大学訪問	Neuro Sky訪問
火曜/2日目	Intel Museum, Google訪問	Apple, NASA訪問
水曜/3日目	ゴールデンゲートブリッジ、オペラハウス訪問	UCバークレー訪問、交流ディスカッション
木曜/4日目	スタンフォード大学訪問	プロフェッショナル・セッション
金曜/5日目	日米未来フォーラム	ワインレセプション
土曜/6日目	自主学習	Tech Museum訪問
日曜/7日目	ギラデリスクエア訪問	学生セッション



Google 本社



日米未来フォーラム



グローバルプロ養成プログラム
参加メンバー

「ヨーロッパで最もグリーンな街から学ぶエネルギー」



留学先：スウェーデン／ベクショー市／
リンネ大学

留学期間：2017年9月10日～22日

留学した時の学年：2年

学部・研究科名：理工学部

学科・課程名・コース名：システム創成工学科
社会基盤環境コース

● 留学の内容

日本よりも技術と普及が進んでいる再生可能エネルギーのうち、バイオマスに重点をおいてスウェーデンにある様々な施設を見学し日本と海外の相違点・類似点などを見つけるとともに、今後岩手や日本で再生可能エネルギーを普及させていくためには何が必要かを考えた。

また、エネルギー以外にも異文化にも触れ日本にはない独特な文化を知ること。

● 留学の動機

海外に行くという経験は将来就職してからでもあるかもしれないが、海外で何か一つのことについてしっかり学ぶという機会は大学でしかできないと思ったから。また、海外を知ることによって今後の生活において多様な視点・考え方を身につけたいと思ったから。

● 留学の成果

岩手で再生可能エネルギーに関しての事前研修を行ったが、そこで得た知識以上のものを見学したり聞いたりしてより深く理解することができた。また、英語を話さなければいけない環境におかれることで英語を話すことに対する違和感がなくなり、英語に対する苦手意識がなくなった。

● スペシャルエピソード

現地のピザはとにかくでかいです。(笑) 日本のサイズ感とは比べ物になりませんので注意してください。それと意外にお土産にできるようなものが売っている場所が少ないのでお土産選びにはなかなか苦労しました。物価も日本より高いので買うか買わないかはかなり悩みました。

● これから留学したい人へアドバイス

まず、英語は聞き取れるようになっておいたほうがいいです。大学や施設で勉強するときにも聞き取れないと何も質問ができず、会話になりません。また、買い物の時も店員が何言っているのかわからないと生活も大変になると思います。あとは、食費を抑えるために簡単な食事は作れたほうが現地での一つの楽しみにもなりますしお得だと思います。

● 留学費用について

①総費用：約25万円

(内訳 渡航費10万円、宿舍費6万円、食費4万円、保険料1万円、お土産代他4万円)

②費用負担 自己負担10万円、親からの支援7万円、留学奨学金8万円

③使ったお金の割合：現金20%、クレジットカード(マスターカード)50%、トラベルプリペイドカード(キャッシュパス)30%

渡航費は事前に払います。宿泊費は金額が大きいためクレジットで支払いました。また、現地では現金はあまり使はないので1万円分くらいしか持っていきませんでした。

● 留学先宿舎について

・形態：シェアハウスのような感じ

・家賃額：日額3600円(光熱費含む)

・参考情報：家具設備、利用できる施設、光熱水費・寝具代などの費用、宿舎の特徴

宿舎はきれいですがハンガーは少ないので持っていくべきです。洗濯はお金かかるのでリセッシュなどがあると節約です。

● 語学力について

・現地で使用した言語：英語

・語学レベルUP：リスニングとスピーキングに関しては行く前よりもできるようになりました。

・適正レベル：TOEIC600くらいあればある程度楽かと…

● ネット環境及びその他の参考情報

・Wi-Fiは空港でレンタルしました。

・寒いので風邪薬は持っていくと安心です。それとマフラーなどあるといいと思います。

● 留学中の主なスケジュール

曜日/日程	午前	午後
1日目	リンネ大学で講義	VEAB(木質バイオマス)見学
2日目	リンネ大学で講義	市役所でエネルギーと町の開発について
3日目	風力発電、南スウェーデン森林所有者組合の講義	ペレット工場、ホテルでのペレットの使用状況の見学、風力発電パーク
4日目	市役所にて都市計画の講義、プレハブ工場	ごみ処理場、汚水処理場の見学
5,6日目	自由行動、観光	自由行動、観光
7日目	プラスハウスについての講義	遠出(IKEA)
8日目	副学長とランチ	木質チップの生成現場見学



リンネ大学内のお城



風力発電パーク
(数が多い)



日本人経営のカフェ

岩手大学生 留学体験談

「海外留学は面白い！？～SCIPに参加してみた～」



留学先：アイスランド(主にレイキャヴィークとその周辺都市)
留学期間：2017年 9月11日～22日
(約2週間)

留学した時の学年：3年
学部・研究科名：工学部
学科・課程名・コース名：電気電子・情報システム工学科
情報システムコース

●留学の内容

持続可能な社会を目指して再生可能エネルギーを用いた発電がさかんに行われているアイスランドに実際に行き、その実態を調査する。現地では地熱発電所や地熱利用をしている様々な施設へ行って話を聞いたり、アイスランドの自然を満喫したりした。また、現地学生との交流・自由時間での街中散策もあった。

●留学の動機

大学生生活の中で一度海外留学をしてみたいと思っていたが、長期の留学には抵抗があった。そんな時このSCIPプログラムの存在を知り、内容も興味深く短期留学だったため、私にぴったりの留学だと感じたから。

●留学の成果

持続可能な社会の実現のためにアイスランドが取り組んできた地熱発電及び地熱利用は日本でも可能な部分と不可能な部分があった。そこから国ごとの持続可能な社会の在り方は異なり、日本ならではの持続可能な社会を目指していく必要があると気付かされた。また、アイスランドの文化を生活しながら体験し、学ぶことが出来た。留学中ほとんどが英語だったため英語に対する抵抗が無くなり、「教科」としてではなく「言語」として意識するようになった。

●スペシャルエピソード

- ・アイスランドは物価が高かったのですが、現地の方々はかなり気前が良くたくさんおごっていただきました。
- ・お湯が硫黄臭いのですが、誤って飲んでしまったときは辛かったです…。
- ・伝統的料理にハウカトルというサメの加工食品があるので、アイスランドで是非一度食べてみてください！

●これから留学したい人へアドバイス

留学前にしっかりと勉強していくことをお勧めします。特に、日常会話で使う表現ですね。しかし、英語がペラペラでなくても大丈夫なので、機会があれば是非留学してみてください。

● 留学費用について

①総費用：34万5000円

(内訳 渡航費17万円、宿舎費9万円(光熱水費含む)、食費2万5000円、保険料5000円、お土産代他5万5000円)

②費用負担 自己負担20万円、親からの支援6万5000円、留学奨学金8万円

③使ったお金の割合：現金25%、クレジットカード(三井住友デビットプラス)75%

● 留学先宿舎について

・形態：民間アパート

・家賃額：10日間 額 9万円(光熱水費含む)

・参考情報：寝室・リビング・キッチン・バスルームがあり、共同で洗濯機が使用可能。
宿舎はきれいで広く、生活しやすい空間。

● 語学力について

・現地で使用した言語：英語

・語学レベルUP：CASECのスコアが120UP!!(450→570)

・適正レベル：CASECのレベルB以上(スコア600以上)

● ネット環境及びその他の参考情報

・現地ではフリーWiFiが多かったが、基本的には持参した海外で使えるポケットWiFiを利用することがほとんどだった。また、現地で充電等する際にはコンセント(アイスランドはタイプC)を用意する必要がある。

・出発前に慌てないよう、パスポートやクレジットカード・保険の手続き等は早めに済ませておくとうい。

● 留学中の主なスケジュール

曜日/日程	午前	午後
1日目	アイスランドへ飛行機で移動	コーディネーターの送迎でレイキャヴィークへ
2日目	アイスランド大学の教授とランチ	アイスランド文化の授業・現地学生との交流
3日目	レイキャヴィークについて学ぶ	地熱利用施設・学校の見学
4日目	都市周辺の自然散策	ブルーラグーン(温泉)に入る
5日目	地熱エネルギーに関する授業	エネルギー利用についての講義
6日目	自由行動	現地学生との交流
7日目	自由行動	現地学生との交流
8日目	自由行動	ゴールデンサークルの観光
9日目	地熱発電所の見学・地熱発電の講義	地熱に関する施設見学
10日目	永久凍土に関する施設見学	現地学生との交流
最終日	日本へ飛行機で移動	



地熱発電所の建物



グトルフォスという滝



現地学生との交流会

「野生動物保全の第一人者になるために」



留学先：カナダ、ペルー、エクアドル、ケニア／サスカチュワン、
プエルト・マルドナード、サン・クリストバル、Soysambu
conservancy

機関名 サスカチュワン大学語学学校、Project Abroad

留学した時の学年：3年

学部・研究科名：農学部

学科・課程名・コース名：動物科学課程

留学期間：2016年 3月～ 2017年 3月
(1年)

● 留学の内容

カナダでは英語力をつけるために語学学校に通った（6か月）。カナダの後にProject Abroadという団体を通して、ペルーでは熱帯雨林で、エクアドルではガラパゴス諸島で、ケニアではサバンナで、環境保護のためのボランティア活動を行った（それぞれ2か月ずつ）。

● 留学の動機

元々留学に興味があったのと、野生動物の保全に興味があったので、海外で野生動物の保全に関わることでできるボランティア活動をして、自分自身がその分野で活躍できる人物になりたかったから。トビタテの奨学金では自由に計画をたてられたのでそれが良かった。

● 留学の成果

多文化環境で適応する能力が身についた。様々な経験を通して、自分についてよりよく知ることが出来た。視野が広がり、人生の選択肢が多くなった。あとは、何事においても慣れるためにはある程度の時間がかかるため、自分が慣れるまでは待つことも大切だとわかった。

● スペシャルエピソード

カナダの語学学校では日本人が割といたが、一人で行動していると、他の国の人たちと交流する機会が増えた。たまには一人で行動してみるといいかもしれない。

ペルーのボランティア先でアジア人が自分一人しかおらず、周りの英語が理解できずに苦労し、疎外感もあってつらいと感じることがあったが、周りをよく見てみるとそんな私を受け入れてくれる場所があった。もっと早くにそれに気づくことが出来たらと思ったけど、それからはあまり自分の固定概念にとらわれずにやってみようと思えるようになった。

● これから留学したい人へアドバイス

周りの人たちは、実際自分が思っている以上に助けてくれるのだとわかりました。頼りすぎるのはよくないのかもしれませんが、自分で抱え込みすぎず、周りに話すことで解決策は見えてくると思います。楽しいことも大変なことも周りの人と共有して、納得のできる充実した留学にしてください！

● 留学費用について

①総費用：約400万円

(内訳 渡航費70万円、学費60万円、ホームステイ費40万円、ボランティア活動の費用(滞在費、食費、保険料込み)180万円、ビザ・保険料6万円、通信費5万円、旅行費用40万円etc)

②費用負担 自己負担20万円、親からの支援180万円、留学奨学金196万円

③使ったお金の割合：現金5%、クレジットカード(VISA)95%

● 留学先宿舎について

・形態：ホームステイ、ボランティア活動先の宿泊施設(バンガロー、ホームステイ、一軒家のシェア)

・家賃額：なし

・参考情報：ホームステイ(カナダ)：家具、食事すべて込み、バス、トイレは共用、カナダの一般的な家庭、通学時間約50分

● 語学力について

・現地で使用した言語：英語

・語学レベルUP：あいさつ、軽い会話ができる→日常会話ができる、レクチャーが半分くらい理解できる

・適正レベル：日常会話より上の、レクチャーが理解できるくらいの英語力

● ネット環境及びその他の参考情報

・カナダ：ホームステイ先と学内のWi-Fi、SIMフリーのケータイ(もう1台日本からのものとは別に)、パソコン

ペルー：ホテルのWi-Fi(週末のみ)、エクアドル：ホームステイ先のWi-Fi、ケニア：SIMフリーのケータイ

・大体のものは現地で調達可能。クレジットカードから現金を引き出す場合、利用限度額に注意が必要。クレジットカード以外にも現金を引き出せるほかの方法があったほうがいい。

● 留学中の主なスケジュール

国/日程	午前	午後
カナダ/平日	宿題など	語学学校の授業、宿題、ホストファミリーと会話
カナダ/休日	ホームステイ先でのんびり	友達と出かけるなど
ペルー/平日	ボランティア活動	休憩(読書、昼寝)、ボランティア活動
ペルー/休日	街に出ていく、町のホテルでのんびり	街で買い物したり
エクアドル/平日	ボランティア活動	休憩(昼寝)、ボランティア活動、アクティビティ
エクアドル/休日	ホームステイ先でのんびり、旅行	街、海にお出かけ、旅行
ケニア/平日	ボランティア活動	休憩(のんびり)、ボランティア活動
ケニア/休日	洗濯、町に出かける、旅行	買い物、映画鑑賞、旅行



野生のサルが遊びに来ました
(ペルー)



気持ちよさそうに眠るアシカたち
(ガラパゴス)



ケニアで好奇心旺盛な
子供たちと

「医療用ブタの開発およびその生産ビジネスの起業を目指して」



留学先：カナダ/サスカチワン州 & アメリカ/ジョージア州
サスカトーン/サスカチワン大学 & サバンナ/マーサー大学

留学期間：2016年 9月 ~ 2017年 9月
(1年)

留学した時の学年：2年
学部・研究科名：農学研究科
学科・課程名・コース名：動物科学専攻

● 留学の内容

最初の2ヶ月半は、サスカチワン大学の語学学校にて、海外生活およびアカデミックにおいて活用できる英語力の向上を目指した。後半の10ヶ月間は、マーサー大学の医学部に属する研究室でラボワークを行うことで、医学的基礎知識と実験手法を習得した。また、シリコンバレーでの1週間のプログラムにて、起業に関する勉強も行った。さらには、ブタを専門とする研究室への訪問および学会の参加を通して、専門家との人脈構築に努めた。

● 留学の動機

岩手大学ではブタの繁殖に関する研究を行っており、将来は医学と農学を融合して、医療用に用いるブタを開発する研究に携わりたいと思っている。さらに、医療用ブタを開発、生産するベンチャー企業を立ち上げ、日本の養豚業界に貢献したいという目標がある。しかしこれまでの私は、起業はおろか医学に関する知識も全くなかったため、医学部に属する研究室へ留学することで、医学的基礎知識や実験を学びたいと思った。また、起業大国アメリカでのアントレプレナーシップ参加により、起業に関する知識も身につけたいという思いから留学するに至った。

● 留学の成果

残念ながら語学力に関しては、自分が思っていたよりも向上しなかった。しかし、10ヶ月間のラボワークを通して、様々な実験手法を習得することができた。得られた実験手法は、日本で行っている実験に応用が可能であると考えており、今後はさらに発展したデータの算出が見込まれている。さらに、アメリカで行った実験の成果は現地の学会で発表しており、現在は科学論文の執筆に取りかかっている。また、シリコンバレーでの研修によって、起業に関する基礎知識を得ることができた。

● スペシャルエピソード

留学前は、研究室のラボワークを通して、実験手法を学ぶことさえできれば良いと考えていた。しかし、私の研究者になりたいという思いを理解してくれた指導教員の先生が、私に学会発表の機会を与えてくれた。さらに、その学会発表において、私の研究に興味を持ったアメリカの大学教授から研究の誘いをいただくことができた。アメリカで研究を行っただけでも貴重な経験であるが、業績に加え、次の留学に繋がるような人脈ができたことは、研究者を目指す上で大きな一歩であり、学会参加を提案してくれた先生には感謝してもしきれない。

● これから留学したい人へアドバイス

私は留学にあたって、留学計画の立案および費用の確保に一番、労力を要した。なので、留学を考えている人には、できるだけ早く情報収集をし、計画を練ることをお勧めする。また、私はこの留学を通じて、日本では到底経験できないたくさんの貴重な体験をした。少しでも海外に興味がある人は、躊躇せず、一度日本の外にでてみてほしい。

● 留学費用について

①総費用：270万円

(内訳 渡航費20万円、学費30万円、宿舍費120万円、光熱水費7万円、食費10万円、ビザ・保険料7万円、アントレプレナーシップ受講料20万円、旅行代などその他56万円)

②費用負担 自己負担30万円、留学奨学金240万円

③使ったお金の割合：現金 5%、クレジットカード (VISA、Master) 45%、トラベルプリペイドカード (キャッシュパスポート) 50%

● 留学先宿舎について

・形態：ホームステイ(カナダ)、アパート(アメリカ)

・家賃額：ホームステイ…30万円 (2ヶ月半分、光熱費、食費含む)

アパート… 月額 9万円 (光熱費含まない)

・参考情報：アパートは家具なし、設備は冷蔵庫のみ。ランドリーは共用。広さは1LDKだったが、日本のアパートと比較すると、かなり広い。

● 語学力について

・現地で使用した言語：英語

・語学レベルUP：もともと英語は苦手であったが、1年間の海外生活で苦手意識はなくなった。生活していく分には問題のないレベルまで到達できたように思う。

・適正レベル：国、州によって発音やアクセントが全く違うため、例え事前に英語の勉強をしても、あまり役立たないという印象。カナダで英語力がついたと思っていたが、アメリカでは全く聞こえなかった。現地で慣れるしかないと思う。

● ネット環境及びその他の参考情報

・ネット環境…主に大学のWi-Fiを使っていた。ホームステイ先においても無料でWi-Fiが使用できた。アパートでは、個人の部屋では使用できないが、一部共用スペースにて無料Wi-Fiを使うことができた。また、現地で安い携帯電話を購入し、メールと電話はどこでも使用できるようにしていた。

・その他の参考情報…海外での市販の医薬品は、小柄な日本人には効きすぎるため、風邪薬などは事前に準備していくことをお勧めする。

● 留学中の主なスケジュール

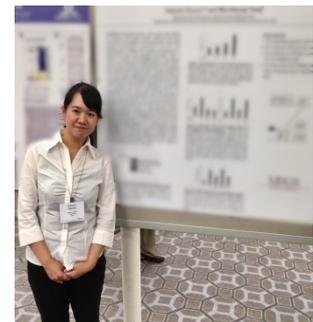
月	所属機関	主な活動
2016年9月～2016年12月	サスカチワン大学	英語プログラムの履修 研究室訪問
2016年12月～2017年9月	マーサー大学	プロジェクト研究、医学実験の技術習得 シリコンバレーにてアントレプレナーシップ参加 研究室訪問 ワシントンDCにて学会発表



語学学校にて



実験中



学会発表

「世界にはばたけ！ Japanese SAKE」



留学先：アメリカ／ボストン・ニューヨーク
機関名：TALK International・サケディスカバリーズ
留学期間：2017年 8月～ 10月
(8週間)

留学した時の学年：3年
学部・研究科名：農学部
学科・課程名・コース名：農学生命課程

●留学の内容

自分の留学テーマはアメリカの地で日本酒・日本食・文化を広めることでした。その前段階としてボストンの語学学校で3週間英語研修を行いました。英語で日本酒について説明することが求められるので、会話に重きを置いた学校を選びました。その後アーカンソー州で新たな酒蔵を造ろうとしている方のもとで1週間滞在し、アメリカの日本酒ビジネスやライスフィールドの視察を行いました。次にニューヨークに移り、サケディスカバリーズという日本酒PR会社のインターンとして4週間活動しました。日本食レストランでのイベントで海外のお客様にお酒の説明やサーブを行いました。また現地の日本食事情や日本酒の市場を知るために、多くのレストランやリカーショップ、さらには現地で日本酒を生産している酒蔵を視察しました。

●留学の動機

地域と密着して地域と海外をつなぐということが自分の目標であり、そんなグローバル人材を目指すうえで第一歩になると考えたからです。また自分が興味がある“農業と日本酒”など、自らが留学計画をコーディネートできるという点にも惹かれました。内容については、以前カフェでアルバイトをしていた時のコーヒーについてお客様に伝えるという経験から、日本独自コメからできる誇るべき日本酒を世界の人々に伝えたいという思いから至りました。

●留学の成果

現地では自分にとって運のいいことにインターン先の方以外はほとんど日本人と会いませんでした。そのため毎日英語で生活をし、自分の活動について伝えたり調査をしました。これにより以前より積極的かつ踏み込んでコミュニケーションができるようになったと感じます。そのコミュニケーションの中で知ったのは、世界中の多くの方が日本酒に興味をもち、待っているということです。興味はあるけどどこでどう飲めばいいかわからないという人に手を差し伸べる活動をもっとしたいと思うきっかけになりました。

●スペシャルエピソード

ホームステイ先で日本酒&おでん会を開いて振舞ったところ、一口でみんなそろって苦い顔をして食べてもらえなかったこと。

●これから留学したい人へアドバイス

海外でもそうですが、日本にいるうちから多くの人とつながりを持っておくことが大事だと思います。思わぬところでつながりが生まれて現地の酒蔵や日本酒会にスタッフとして招待していただくなど+αの活動を多くすることができました。

● 留学費用について

①総費用：91万円

(内訳 渡航費20万円、現地移動費7万円、国内移動費4万円、学費10万円、宿舍費23万円、食費20万円、保険料1万円、生活費3万円、お土産代他3万円)

②費用負担 自己負担3万円、担当留学奨学金88万円

③使ったお金の割合：現金30%、クレジットカード(ビザ) 70%

● 留学先宿舎について

・形態：ホームステイ、シェアハウス

・家賃額：ホームステイ>月額 12万円(食費含む)

シェアハウス>月額 11万円(食費含まない)

・参考情報：ホームステイ> 部屋にベッドと机があり家の設備は自由に使えました。留学生は自分一人でした。
 シェアハウス> 生活に使う設備や道具は揃えられていました。シーツ類のみ購入し、中古布団は無料だったのでそちらを利用しました。改装したてで駅から近く便利な場所でした。

● 語学力について

・現地で使用した言語：英語

・語学レベルUP：留学前より一歩進んだ英語コミュニケーションができるようになったと感じます。今後TOEICで数字を見る予定です。

・適正レベル：生活の中の英会話ができる。

● ネット環境及びその他の参考情報

・インターンで頻りに連絡を取ることが予想されたのでポケットWiFiをレンタル(2.5万円/月)しました。また資料作成のためにPCを持参しましたが、ホームステイ先やシェアハウスではWiFiが完備されていたので自宅で使用できました。

● 留学中の主なスケジュール(ボストン)

曜日/日程	午前	午後
月曜/1日目	英語の授業、クラスの友達とランチ	友達と市内観光
火曜/2日目	英語の授業、クラスの友達とランチ	リカーショップ視察
水曜/3日目	英語の授業、クラスの友達とランチ	日本食レストラン視察
木曜/4日目	英語の授業、クラスの友達とランチ	友達と市内観光
金曜/5日目	英語の授業、クラスの友達とランチ	友達の家で日本酒&バーベキュー会
土曜/6日目	留学レポート作成	家族で食事
日曜/7日目	友達とレンタカーで観光	日本食レストラン視察



友達と観光



日本酒イベント



ファーマーズマーケット視察

「観光におけるデザインとユーザビリティの両立を学ぶ」



留学先：カナダ／ケベック州／モントリオール
BLIモントリオール校
カナダ／ブリティッシュコロンビア州／ビクトリア
留学期間：2017年 8月～ 9月
(1か月)

留学した時の学年：3年
学部・研究科名：教育学部
学科・課程名・コース名：美術・デザインコース

● 留学の内容

トビタテ！留学JAPANを利用し、モントリオールへ4週間＋ビクトリアへ4日間滞在しました。「魅力的な駅舎の構築を通し、公共交通機関を利用した岩手観光のメジャー化を図る」という計画の元、モントリオールで①語学研修②アンケート調査③駅舎・ツアー見学、ビクトリアで①ツーリズム会社訪問②ツーリストコンサルタントへのインタビューを行いました。ビクトリアでの企業訪問の際は、盛岡・ビクトリア友好協会会長のビルさんにご協力いただきました。

● 留学の動機

公共交通機関を利用した観光の提案・メジャー化を図り、岩手観光のインバウンド拡大につなげたいと考えました。そのため、メトロをはじめ公共交通機関を主な交通手段としながら観光客を集客し続けるモントリオールと、バスツアーを中心に主要イベント等で集客をしているビクトリアへ行くことにしました。

● 留学の成果

県内における観光地とその交通手段のそれぞれに関して、改善点を発見・提案できました。さらに留学前後でインターンさせて頂いたIGRいわて銀河鉄道株式会社様、農業生産法人株式会社サラダファーム様の2社それぞれからもご意見を頂き、ブラッシュアップできました。今後はそれを基に、卒業制作としてパンフレットを作成する予定です。

● スペシャルエピソード

カナダには1ドルショップがあり、そこで大抵の生活用品が買えました。しかし、日本の化粧品やアメニティグッズは現地だと3～5倍の値段がするため、必需品があれば持参すると思います。また、モントリオールは仏語・英語のバイリンガル都市ですが、中心部から外れるほど仏語が多くなっていました。もしケベック以東の郊外へ行くのであれば、簡単な挨拶やお礼は仏語でも言えるようにしておくとう便利です。

● これから留学したい人へアドバイス

渡航前に英語の基礎をもっと学んでおけば、より効率的な学習ができたなと感じました。1か月という短期留学だったこともあり、コミュニケーションやアクティビティがメインの語学学校の授業は、インプットよりもアウトプットが中心になってしまいました。また、渡航中はたくさんの便利なアプリに助けられたので、ぜひ出発前に色々調べてインストールしておくと思います。

● 留学費用について

①総費用：55万円

(内訳 渡航費24万円、学費10万円、宿舍費13万円、食費2万円、ビザ・保険料1万円、お土産代他5万円)

②費用負担 自己負担9万円、留学奨学金46万円

③使ったお金の割合：現金20%、クレジットカード(三井住友デビュープラス/ライフカード) 80%

※カナダはカード社会ということもあり、ほとんどクレジットカードを利用しました。ただし、カード利用不可能な一部店舗でのみ現金を利用しました。

● 留学先宿舎について

・形態：学生寮

・家賃額：月額13万円(光熱水費含む)

・参考情報：新しくきれいでした。各部屋ユニットバス付きでキッチン・ランドリー(別途料金要)・ジム・パソコンルーム・図書館は共用です。ベッドリネンは無料レンタルですがデポジットとして1万5千円請求されます。地下鉄から直結しているため、交通の便が良かったです。

● 語学力について

・現地で使用した言語：英語

・語学レベルUP：リスニング力の強化とスピーキングの練習ができました。

・適正レベル：TOEIC500以上あれば生活はしていけると思います。ただし、語学研修だけでなく、実地調査やボランティア・インターンなどを成功させたい場合、より高い英語力が必要だと思います。

● ネット環境及びその他の参考情報

・私物スマートフォン。携帯の契約は変えず、機内モード+フリーWIFIのみで対応しました。

● 留学中の主なスケジュール

曜日/日程	午前	午後
月曜/1日目	授業(文法、スピーキング)	授業(アクティビティ)、駅舎調査
火曜/2日目	授業(文法、スピーキング)	授業(アクティビティ)、買い出し
水曜/3日目	授業(文法、スピーキング)	授業(アクティビティ)、留学生交流サークル
木曜/4日目	授業(文法、スピーキング)	授業(アクティビティ)、駅舎調査
金曜/5日目	授業(文法、アクティビティ)	クラスメイトとご飯、買い物
土曜/6日目	観光案内所訪問	ツアー調査、企画切符利用、駅近イベント視察
日曜/7日目	公共交通機関利用	企画切符利用、地下鉄駅周辺・イベント視察



語学学校への道(モントリオール)



学生交流イベント(モントリオール)



ブッチャーガーデン(ビクトリア)

岩手大学生 留学体験談

「暮らしを変える。－地域と考える、新たな理想郷－」



留学先： イギリス ボーンマス/ドイツ ハイデルベルク・
フライブルク/スイス
機関：Kings Bournemouth, F+U Academy
of Language, ロッテンブルグ林業大学

留学した時の学年： 3年
学部・研究科名：農学部
学科・課程名・コース名：農学生命課程
留学期間：2017年8月～10月
(2か月)

●留学の内容

私たち日本人の暮らしを再生可能エネルギー・まちづくりを手段にして、文化的で多様な、豊かなものにするためにはどのようなアプローチが有効かを学ぶ。

●留学の動機

再生可能エネルギーに以前から強い関心があり、より身近な実践例を学びたく思ったため。また、日本人が抱える社会問題(孤独死、ライフワークバランスなど)を住みよいまちを作ることで、雇用などの観点から改善できるのではと考えたため。

●留学の成果

農業経営者の複数の事例から、自身の農業への考え方を改めて見つめなおすことができた。生業としての農業だけでなく、地域とのかかわり方、貢献、付加価値の創造が可能な経営方法が印象的だった。ドイツの黒い森に実際に入り、高価値な木材の生産法や多様性を重視した林業を目の当たりにし、根本から考えを覆された。オルガン工房見学では、黒い森から生産された木材を使用していることなどから、彼らの伝統に強い誇りや使命感を感じることができ、日本のまちづくりにも生かせる考え方なのではと考えさせられた。

●スペシャルエピソード

私が滞在していたドイツ・ハイデルベルクはとても美しい街で、どこを眺めても絵になるような街並みで毎日が新鮮だった。ソーセージなどの加工肉が有名なドイツだが、一時期毎朝ハム・チーズ・パンが出されたことがあり、体調を崩してしまった。ドイツの林業従事者、農家さんのほとんどがパートナーとして大型犬を飼っていたことに驚いた。さらにどの犬もしっかり手なづけられていたことにも驚かされた。

●これから留学したい人へアドバイス

どんなに困難な計画でも、意志があれば実現できます。やりたいと思ったらとにかく行動に移してみてください！ 実行しないで後悔するより、実行して後悔したほうが自身の糧になりますよ。

● 留学費用について

①総費用：72万円

(内訳 渡航費14万円、移動費4万円、学費30万円、宿舍費16万円、食費3万円、保険料2万円、お土産代他3万円)

②費用負担 自己負担0円、親からの支援5万円、留学奨学金72万円

③使ったお金の割合：現金40%、トラベルプリペイドカード（キャッシュパスポート）60%

● 留学先宿舍について

- ・形態：ホームステイ、語学学校の寮(どちらも語学学校)、修道院など(林業大学)、ホテル(視察)
- ・家賃額：イギリス1か月語学学校 9万円 ドイツ語学学校 2週間7万円(光熱費・食費含む)
- ・参考情報：ベッド、クローゼット(ホームステイ、寮) 寮では共同キッチン・シャワー・トイレが利用できた。
寮は古い街並みが広がるエリアを選んだ。

● 語学力について

- ・現地で使用した言語：英語
- ・語学レベルUP：英会話への恐怖心がかなり薄れた。日常会話程度ができるようになった。
- ・適正レベル：渡航前から日常会話がそつなくできると、より交流を深められたのではと思った。

● ネット環境及びその他の参考情報

・私物パソコン、スマートフォンを持参した。Wi-Fiは3か国だとレンタルルーターが高かったため、寮やホームステイ先、ホテルのWi-Fiを利用してしのいだ。林業大学研修で宿泊した修道院では、Wi-Fiが通っていなかったため海外1Dayプランを利用した。長期滞在するならSIMフリースマートフォンやルーターを購入することをお勧めします。私はドイツで食事が合わなく、体調を崩したので整腸剤などの薬を一通りそろえておくと安心だと思います。

● 留学中の主なスケジュール(視察中、6日間)

曜日/日程	午前	午後
月曜/1日目	黒い森散策	オルガン工房見学
火曜/2日目	エネルギー自立村フライアムト視察	持続可能な都市計画、地域熱供給
水曜/3日目	団地の再生と省エネ改修見学	ドイツのエネルギーシフトとセクターカップリング レクチャー
木曜/4日目	ハーブ生産者によるバイオガス生産見学	オーガニック食品流通会社見学
金曜/5日目	造園会社による省エネ改修	エネルギー自給型木造会社見学
土曜/6日目	農家共同体による畜舎運営と太陽発電	太陽熱温水器でハーブ乾燥を行う農家さんの取り組み、ワークショップ
日曜/7日目	ツェルマツト観光	午前同様



写真①ロンドンでの1コマ



写真②林業大学研修見学先にて



写真③ハーブ畑 乾燥設備に太陽熱利用

号外

どーして今?留学!

学生の留学がブツーンになってきた。

国や大学の留学支援制度が充実し、学生が留学しやすい時代に!
留学のための奨学金は学生向けのものが多く、
費用面でも学生のうちの留学がおトク!

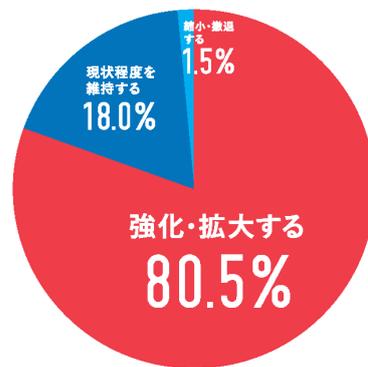


今の一歩で、
将来が変わるかも!

日本人大学生の海外留学数出典: (独)日本学生支援機構「協定等に基づく日本人学生留学状況調査」

日本企業の8割以上が 海外事業を強化したいと 考えている。

グローバル人材不足に悩める企業は5割以上!
留学経験を就活に活かす学生も増えています!



わが国製造業企業の海外事業展開に関する調査報告 中期的海外展開事業見直し: 2015年度国際協力銀行調べ、607社が回答。

企業の人事に聞いてみた。

※トビタテ!留学JAPAN 公式HPより抜粋
(グローバル人材育成コミュニティ委員によるメッセージ/役職はインタビュー当時のもの)



当社が求める人材像は一言で「高い見識と広い視野を持ち、地球規模で活躍できるエクセレントパーソン」ということです。明確な目的と信念を持って留学をした経験は、必ずその人の力になります。留学を通じて留学力だけでなく柔軟な思考力とコミュニケーション力を備えた方は、社会に出て十分に活躍しうる人材だと思います。みなさんのチャレンジを、企業としても積極的に支援していきたいと考えています。

キヤノン株式会社 人事部 人事統括センター
グローバル要員管理部 担当部長 山林 美紀様



我々を取り巻く環境はこの20年で大きく変わり、経済水準、教育水準も新興国は先進国に迫りつつあると捉えていくべきです。日本は国際社会で遅れをとるのではないかと、そんな危機感を感じます。国内にいたとしても、海外の人と接する機会をもっと増やしていくでしょう。また一方でますます外資に依存することにもなるでしょう。今後日本人として負けないようにやっつけようと思うなら、海外の人々とうまく付き合えるようにしておくことが重要だと思います。

三菱商事株式会社 人事部 採用チームリーダー
日下部 義志様



慣れた環境を飛び出し、海外で大きな刺激を受けて視野が高まり、視野が広がることで、世界サイズで自分の生き方について深く考えるようになるのだと思います。すると、まだまだ成長しなくてはという気持ちが強くなり、何事にも一生懸命打ち込むようになるのではないのでしょうか。学生時代には、自分の自由に使える時間があります。貴重なチャンスを無駄にしないように、多くの人たちと出会い、発信力を高めてください。

株式会社ナガセ 人事部 副部長
樋口 智行様

いつ留学する？

早めの準備で、その後の視野がぐっと開けます！

先手必勝派

トビタテ花子さんの場合
～夏の短期→在学中の交換留学～

1年生	春	大学の留学相談窓口で情報収集 早めの準備の大切さを知り、GPA(※)・語学テスト対策をスタート。 4月末に夏の短期プログラム(JASSO奨学金対象)へ滑り込みで申込み！
	夏	大学が企画する2週間の語学研修に参加！ 世界中に友達が出来ると。オーストラリアの名門大学への交換留学を目指すことを決意。
	秋	IELTSの目標スコアを達成し交換留学制度に応募。同時期に「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」にも申請。
	冬	憧れの第1志望大学、トビタテの奨学金、ともに合格。 出発まではサークルやアルバイトを満喫。
2年生	秋	留学へ飛び立つ。
3年生	秋	7月に交換留学を終え、夏休みは現地企業でインターンシップして、帰国。
4年生	夏	就活スタート。 海外での充実した経験が評価され、内定を獲得。

※GPA：特定の方式で算出された大学の成績評価値

スロースタート派

留学太郎さんの場合
～春の短期→大学院留学～

1年生 2年生	春	留学ガイダンスに参加し、在学中の選択肢を把握。 1～2年次はサークルに所属し活動に専念。
	春休み	大学から奨学金が給付される短期のシンガポール研修に参加。 海外の学生の優秀さに刺激を受け、本格的に海外で学びたいとなり、大学院留学を目指すことを決意。TOEFL、GRE(※)などの対策をスタート
3年生		研究をしつつ、語学も勉強。
4年生	秋	努力のかいあり、TOEFLスコアが30点アップし90点突破 海外大学院へ出願、同時期にJASSO学位取得型・奨学金(給付型)も申請
	冬	志望していた大学院も、奨学金も合格！
卒業後	秋	海外大学院へ飛び立つ。

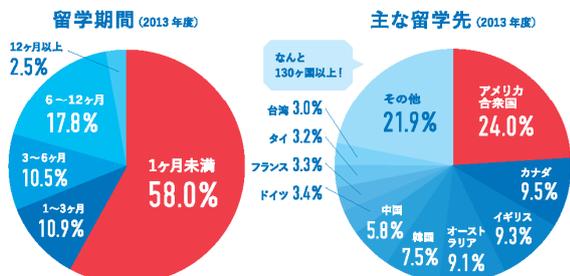
※GRE：主に北米の大学院入学希望者を対象とした学力テスト



どんな留学にする？

行き先も、目的も、期間も、あなたの自由。

語学留学 交換留学 インターンシップ
ボランティア フィールドワーク
研究 大学院進学 etc...



出典：(後)日本学生支援機構「協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」

どうやって情報収集する？

様々なプログラムや奨学金があります。大学のHPやパンフレット、留学担当窓口を活用し、自分の目的に合わせて情報収集してください。

どんなプログラムがあるの？

大学独自のプログラム

留学エージェント、旅行会社、NPOなどが主催する留学プログラム

自分で企画／手配する留学(※)

※自分で海外の学校を探して直接申し込み、インターンシップやボランティアを受入してくれる企業や団体を探したりすることで、自由にプランニングできます。

どんな奨学金があるの？

国費によるJASSO(※)海外留学支援制度

返済不要の給付型奨学金、年間約23,000名募集。

▶ 大学院での学位取得を目的とした留学(JASSOに直接申請)や大学の協定派遣型の留学(大学に申請)が対象。

※JASSO：(後)日本学生支援機構の略称

トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム

返済不要の給付型奨学金、年間約1,000名募集。

▶ 充実した事前・事後研修とOBOGコミュニティ

▶ 28日～2年間の留学計画を自分で作り、大学を通じて応募

▶ 学校に行かないインターンシップ等の活動も対象

トビタテ 検索

その他の奨学金

国内外の産官学による奨学金情報を一括検索。

JASSO 留学奨学金 検索

まずは調べてみる? 詳しくは **トビタテ**



留学ぶっちゃけQ&A
「トビタテ」更新中!



文部科学省



JASSO



トビタテ!
留学JAPAN

私の夢は 世界中の どこかに 細くある

トビタテ! 留学生「多文化共生」を築くためカナダへ留学

トビタテ! 留学JAPAN 日本代表プログラム

2018年度
大学生等向け **800名** 奨学生募集

第10期 7月-10月

第11期 12月-3月(予定)

各期 400名

- ✓ 返済不要
- ✓ 成績/語学力不問
- やる気応援型の自由な奨学金
インターン・ボランティア等
学校に行かないプランもOK



詳しくは



トビタテ!

岩手大学国際交流のFacebookとTwitterも
ご覧ください！
イベントや留学についての便利な情報が
盛りだくさん！



Facebook

Twitter



岩手大学国際交流

019-621-6076/6057

iuic@iwate-u.ac.jp